

済生

SAISEI

THE NEWSLETTER of
Social Welfare Organization
Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

No.1154

「NEWSな済生人」

総合病院だからこそその
生殖補助医療を



8

August 2025

<https://www.saiseikai.or.jp>

社会福祉法人

恩賜
財団

済生会

済生会の 不易流行論

理事長 炭谷 茂
Shigeru Sumitani



203

憲法順守の精神

57年前、旧厚生省の入省試験の面接を受けたときだから、ずいぶん昔の話である。面接官は、次官や局長など省の幹部だった。生意気盛りだった私は「たいしたことないだろう」と自信満々で臨んだ。

朝日訴訟の最高裁判決があったので、あらかじめ勉強して臨んだ。朝日訴訟の判決についてどう考えるか」と想定した質問を投げかけられた。質問者は社会局長(当時)だったと後で分かった。「現在の生活保護基準は憲法25

条違反が明白だから、最高裁は明確に違憲判決を下すべきだった」と自分の考えをストレートに述べた。すると、局長は「保護基準は専門的だから、素人には分らないだよ」と気分が害されたように話し、「25条2項は何を規定しているか、知っているか」と聞かれた。

25条2項は盲点だった。法学部の講義で触れられず、憲法学の標準的な教科書でも詳細な記述はない。私が返答に窮していると、人事課長はポケットから手帳を取り出して読み上げ、助け舟を出してくれた。

なぜ局長がいじわると思える質問をしたのか、今でも分からない。「憲法や生活保護法をもっと勉強してから発言しなさい」という教訓だったのだろうか。

国家公務員として在職中は、憲法を始め法令に違反しないように最大限注意した。学生時代と違い、実務を通じての法律の勉強は身についた。

いくつかの案件は訴訟になった。訴訟を恐れて「事なかれ主義」では良い仕事ができない。困難な課題は、最高裁まで行っても大丈夫と自分で納得で

きる理論構成をしてから決断した。実際に最高裁まで持ち込まれた案件は、複数あるが、考えていた理論構成どおりで勝訴した。裁判所で証言することがあったが、臆することなく相手側弁護士に反論した。勉強の成果があったと思う。

※朝日訴訟とは

1957年に岡山県の朝日茂氏が、生活保護費が低すぎて「健康で文化的な最低限度の生活」ができないとして国を訴えた。憲法25条が保障する生存権や生活保護の水準が問われ、社会保障のあり方に大きな影響を与えた。一審は勝訴したが二審と最高裁では敗訴した。

SMBC

SMBCグループ

昨日、 今日、 明日、三井住友銀行と。

昨日とは違う今日をはじめるために。
今日を未来へとつなげていくために。
私たちは、お一人おひとりの毎日を、
一つひとつの変化を、丁寧にみつめていきたい。
いつどんなときも、あなたにいちばん近い銀行でありたい。
これからもずっと、あなたの人生のパートナーであるために。



SMBC 三井住友銀行

三井住友銀行

topics★コンシェル



「済生」のエンジン（原動力）は後半にあり!!
質・量ともに充実の、済生記者たちが投稿する
記事は宝の山、原石の煌めきを放っています。
済生コンシェルジュがおすすめする記事を
ご紹介します。

短冊にどんな願いを書いた
のでしょうか。みなさんの願
いなど、「七夕」イベントを
特設コーナーで紹介します。
先月号に引き続き、今月も
全国済生会親善ソフトボー
ル大会出場に向けた臨場感
のある写真が、済生記者など
からたくさん届きました。

The latter half of this magazine is
covered with a rich forest of
treasurable articles.
What will you discover there?



表紙のことば 知性輝く海の魔術師

表紙イラスト 久保田真由美 Mayumi Kubota

頭と8本の腕それぞれに全部で九つの脳を持ち、体
の色を魔術師のように瞬時に変えるタコ。小さな吸
盤は匂いも味も感じ、自在に判断し動かすことがで
きる。デビルフィッシュと呼ぶ国もあるとか。人の

顔をも覚え（かん）噂（うわさ）もいたずらもする。スポーツの勝敗
を占う。デビルと言うにはあまりに魅力的な生き物
です。関西では夏が旬。食べたものは体になります。
タコの神秘的な能力も身になるでしょう。



済生

SAISEI

CONTENTS
AUGUST, 2025

NEWSな済生人

総合病院だからこそその生殖補助医療を

〈栃木〉宇都宮病院

06

産婦人科医長代理

吉政佑之さん

産科病棟課長

+ 大沼のり子さん

培養担当技師

+ 野崎真弓さん

培養担当技師

+ 中里貴絵さん

済生会交差点

《多職種連携でタスク・シフト》診療放射線
技師が静脈路確保等習得で、医師の業務負
担を軽減／《インクルーシブ商品開発》ぶり
もばっそと地元の団体・企業をつなぐ「おた
る水族館」

10

連載 機関誌「済生」が 創刊100年!

20

巻頭コラム 済生会の不易流行論

憲法順守の精神 理事長 炭谷 茂

03

topics★コンシェル

表紙のことば 久保田真由美

05

ソーシャルインクルージョン

15

ハローキティが中津医療福祉センターを訪問

18

陸前高田診療所 創立10周年記念演奏会

22

この人 露の団姫

24

口福につぼん

吉井省一

26

だれでもかんたん てづくりおもちゃ

いまいみさ

28

TOPICS

30

大雑報

90

題字協力：石飛博光

アートディレクション：OVO INTERNATIONAL

不妊に悩む方々の希望の光 県下の産婦人科として「最後の砦」

NEWSな済生人 Interview



宇都宮病院は妊娠から出産、産後までお母さんと赤ちゃんを幅広くトータルサポートする体制を整えている。中央は飯田産婦人科主任診療科長



培養担当技師の役割は採卵した卵子や採精された精子の受精操作や受精卵の成長観察、移植しなかった余剰胚の凍結・融解など多岐にわたる



培養担当技師

中里貴絵さん



産科病棟課長

大沼のり子さん

培養担当技師

野崎真弓さん

〈栃木〉宇都宮病院

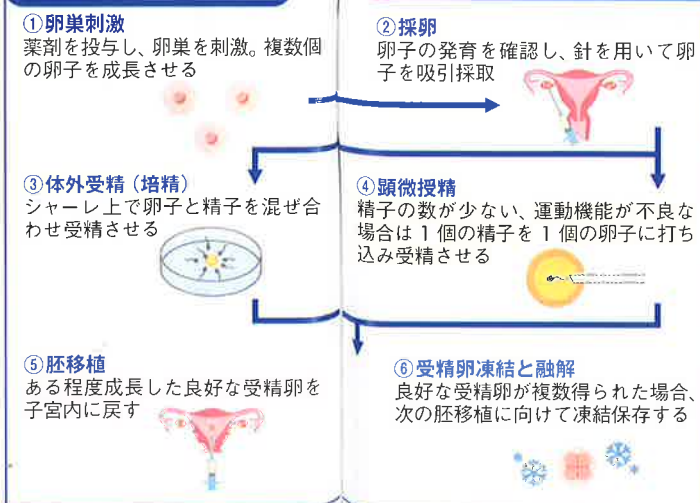
産婦人科医長代理

吉政佑之さん

総合病院だからこそその生殖補助医療を

左はインタビューの吉川さん

生殖補助医療の流れ



※宇都宮病院外報「みやのわ」より一部抜粋

吉川 宇都宮病院に就任したのは22年4月で、生殖補助医療が保険適用となったタイミングでした。市内で生殖補助医療を実施する施設のうち生殖医療の専門医がいるところがあったので、済生会で生殖補助医療の体制を整えたいと思いました。もう一つは、生殖外科手術で不妊に悩む患者さんの期待に応えることができると思ったからです。

吉政 不妊治療を進める中で、子宮筋腫や子宮内膜症といったような妊娠を妨げる良性疾患が見つかることがあります。それらを取り除くことで不妊の状態を改善することができます。クリニックで手術は困難。生殖補助医療を行なえる総合病院だからこそやる意義があると感じました。

吉川 総合病院ならではの強みが出せるということです。

吉政 さらに、当院は地域周産期母子医療センターで、医師・助産師が24時間体制で対応することができます。母子ともに安心して周産期を過ごせるというのは当院の強みです。

吉川 不妊治療の中でも体外受精など高度な医療技術を用いた生殖補助医療を宇都宮病院で始めたきっかけを教えてください。

吉政 宇都宮地域で生殖補助医療をしていく医療機関が少なかったことが前提としてあります。現在は宇都宮市内で生殖補助医療を実施するクリニックが当院を含め4施設ありますが、そのうち二つは最近開設された施設になります。

吉川 生殖補助医療を担える施設が少なかったということですね。

吉政 はい。当院でも現在の主任診療科長の飯田俊彦医師が小規模ながらも生殖補助医療を実施していました。しかし一人では負担が大きすぎるということもあり、21年12月に中断することになりました。

〈栃木〉宇都宮病院は昨年、「生殖補助医療」をテーマにクラウドファンディング（CF）を実施。約2900万円もの支援が集まり、同年11月に生殖外来を開院。生殖補助医療を開始しました。同診療に関わるメンバーにプロジェクト始動のきっかけや今後の展望を伺いました。

（新潟病院 事務総務課 吉川未織）

※写真撮影時のみマスクを外しています

多職種のメンバーと 困難な状況に立ち向かう

吉川 新潟病院でも四半世紀近く生殖補助医療を提供しています。宇都宮病院も多職種で取り組んでいると伺いましたが、皆さんはどのような役割を担っているのでしょうか。

地域住民の期待の高さがクラウドファンディングであらわに



① 不妊に悩む人の期待に応えるためにチームワークは欠かせない ② 卵子を採取して受精卵の移植を行なう採卵室 ③ 培養室。左はインテバイオステーションと呼ばれる装置でクリーンな環境を保ち顕微授精などを行なう ④⑤ 不妊治療経験者などからたくさんの応援メッセージが寄せられた。将来的には生殖医療の修練など産婦人科医が専門技術を学べる場を整えたい

大沼 私は産科病棟の課長をしています。吉政先生が生殖外来を実施する際は不妊治療のカウンセラーを配置し、診療介助、妊娠・出産や不妊に関する情報提供、精神的ケアなどを行っています。患者さんが採卵や胚移植で病棟にいらつしやる時は患者さんのケアを行ないます。

吉川 カウンセラーは助産師が行なっているのでしょうか。
大沼 不妊カウンセラーの資格を持つている助産師と婦人科外来の看護師が担当しています。不妊治

療だけでなく、妊娠・出産・育児までつなげることを考えると、婦人科外来看護師と助産師の役割は大きいと感じています。
吉川 なるほど。野崎さんと中里さんは培養担当技師ですね。

野崎 はい。私たちは培養担当技師として生殖補助医療に携わっています。



吉政 目標は20個程度の卵子を採取することですが、これもなかなか難しいです。当院を受診する患者さんは、さまざまな原因によりクリニックでの不妊治療がうまくいかなかった方が多い。条件としてはかなり厳しいこともあります。年齢が進むにつれて一度に採取できる個数は減少し、いい状態の卵子を採取できる確率も下がってしまうのです。

吉川 やはり人工的に受精させるというのはすごく難しいことなのでしょう。
中里 卵子や精子の状態に左右されます。また、どちらも状態が良くて受精しないこともあります。受精してもそこから無事に育ってくれるかはまた別のハードルがありますね。



吉川 それでも宇都宮病院が生殖補助医療に取り組むことは妊娠を望む方だけでなく、クリニックにとっても頼もしいのではないのでしょうか。
吉政 そう思っていたらうれしいですね。東京に通って治療を受けることができる方はそれでもいいと思っています。一方で遠くまで通えない、合併症や持病があるという方などにとって、当院は総合病院ですから難しい状況にも対応できることがある。私たちが不妊治療をする意義はそこにあるのだと思っ

病院一丸で達成したCF 院内の連携強化に寄与

る県西保健医療圏（鹿沼市、日光市）にもありません。

吉川 まさに「最後の砦」ですね。

吉政 だからこそ飯田先生も「当院から産婦人科をなくしてはいけない」と言います。先日未受診で妊娠30週を過ぎた母体の救急搬送がありました。

吉川 宇都宮市の出生率というのはいかがでしょう。

吉政 全国同様、県内の出生率は年々下がっています。当院でも10年程前までは年間1200件程度の出産があったのですが、最近では1000件を切っています。宇都宮市も対策に乗り出しており不妊治療の補助金を交付しています。初回の体外受精は保険適用もあり患者さんの窓口負担は3割ですが、年齢制限はあるものの、市ではその3割も負担してくれず。これはかなり手厚いと思います。



吉川 まさにCFのメリットですね。
吉政 CFに取り組んだことで院内の皆の顔が見えたことが一番の収穫ですね。結束したことで、どんな問題でも解決できるような医療体制を整えることができ



吉川 クラウドファンディング（CF）では結果的に当初目標額の3倍近い金額が集まりました。それは地域住民からの期待の表れだと思いますが、それをどのように返していきたいと考えていますか。
吉政 正直、プレッシャーは感じていますね。CFでは培養室を大きく改装する中で新しい機械を入れるのに管財課スタッフであったり、看護師であったり、検査技師、医事課、人事課、物品管理課、地域連携課、経営支援課……本当に多くの職員が関わり、手を差し伸べてくれました。他の診療科の先生方もすぐ理解を示してくれて、一例として、甲状腺機能に問題があると妊娠しづらいということで内科の先生も協力してくれています。

リスク妊娠であることが知られています。また、産婦人科があつて全身麻酔の手術までできる病院は市内もそうですが、隣接す

取材はユーモアのある吉政先生を筆頭に終始明るい雰囲気が進みました。一方で皆さんの眼差しからは、「最後の砦」として

難しい症例に向き合う真摯な思いや、職種を超えたチームの一体感がひしひしと伝わってきました。（吉川末織）



インタビューの吉川さんが所属する新潟病院の生殖補助医療チーム。宇都宮病院同様にバイオクリーンルームや胚培養器、顕微授精装置等を整備し、医師、助産師、看護師、認定胚培養士が患者さんに寄り添い治療にあたっている





研修では看護師が指導者を担当。血管モデルを用いて実践練習が行なわれた

業務を開始しました。2025年5月までの約5カ月間での実施件数は、多い技師で100件を超え、PET検査専任の2人がそれぞれ約50件、他の3人の技師はおおよそ20件前後と、短期間で着実に実績を重ねています。

**着実に実績を重ね
チーム医療のさらなる深化を**
実際に技師がこの業務に関わるようになったことで、放射線科医師の業務は確実に軽減され、検査全体の効率も向上しました。医師の負担を和らげながら、患



プロジェクトに関わった看護部職員ならびに認定を受けた診療放射線技師

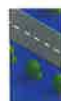


済生会にはたくさんの道があります。
道はどこかの交差点で交わり、離れていきます。
そして経路は異なっても目的地はみんな同じ。
「笑顔」です。

いる、看護部臨床実践能力向上
委員会の委員が講師を務めまし

た。研修の中では、手順に沿ったデモンストレーションだけでなく、穿刺する血管の選び方、駆血の仕方、物品の配置の仕方など、手順にはない看護師の経験も伝えられました。

研修後、診療放射線技師は看



護師の見守りのもと、血管モデルを使用しながら練習を重ね、穿刺の一連の流れができるかどうかの技術確認を行ないました。評価者はCT室やRI室で業務するクリニカルリーダーレベル以上の看護師で、チェックリストを用いて評価。血管モデルでの技術確認修了後、実際に患者さんに実施しながら技術確認し、合格にて、臨床の場で独り立ちとなります。

2024年12月17日

25年1月中旬までに

業務を開始しました。

2025

業務を開始しました。

全ての技術を習得した診療放射線技師には認定証が授与され、独り立ちが可能に



放射性医薬品投与を行なう診療放射線技師



診療放射線技師が 静脈路確保等 習得で

医師の 業務負担を軽減

現在、当院には19人の診療放射線技師が勤務しており、そのうち13人が厚生労働省の定める「告示研修」を修了しています。ま

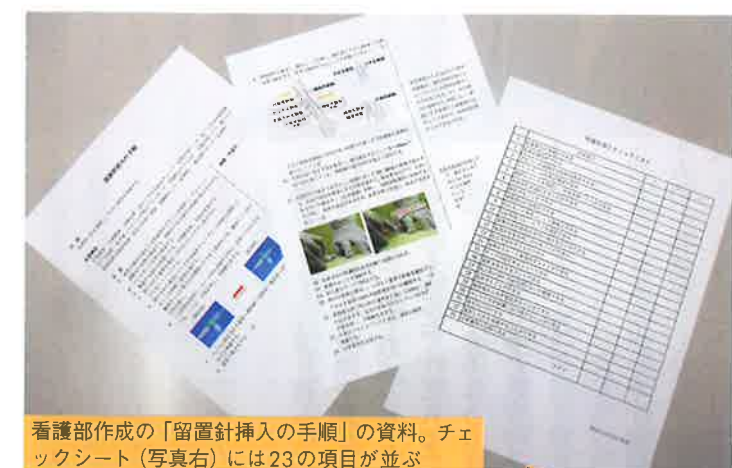
当院では、医師の業務負担を軽減し、チーム医療をより効果的に進めるために、いわゆる「タスク・シフト/シェア」の取り組みを進めています。その一環として、2024年12月より診療放射線技師による静脈路確保が本格的に始まりました。



筆者の松田さん(左)と榊田さん

て放射線科医師(3人)が曜日ごとに担当してききました。しかし、CTやMRIの読影依頼が年々増加し、医師への負担が大きくなっていたことから、PET・RI検査を担当する放射線

た、2025年4月には新たに新人2人のうち1人が加わりました。これまでに、看護部による技術確認を経て、6人の技師が静脈路確保を行なうことを正式に認定されています。



看護部作成の「留置針挿入の手順」の資料。チェックシート(写真右)には23の項目が並ぶ

看護の知見を伝授 独り立ちに向けた研修

看護部では、看護師の注射・点滴の技術習得方法が診療放射線技師の静脈路確保技術の習得に役立つと考え、そのノウハウを生かす形で技術指導が行なわれました。研修では、実際に現場で業務として点滴の実施や後輩看護師へ技術指導を行なっ

技師がこの業務の一部を担う体制へと移行することとなりました。

インクルーシブ 商品開発

北海道済生会
済生記者
土谷浩大

「おたる水族缶」 ぷりもぱつそと地元の団体・企業をつなぐ

北海道済生会は、小樽病院内にある就労継続支援事業所ぷりもぱつそと地元団体・企業と連携し、小樽市の新たなお土産品「おたる水族缶」を開発・販売しています。ぷりもぱつそでは、「おたる水族缶」のほかに、文明堂とコラボしたオリジナル



筆者の土谷さん

道名産物等の販売、クリーニング等を行なっています。今回取り組みで得られた収益は、就労継続支援事業所の利用者さんの賃金に還元される仕組みです。この事業のきっかけは、北海道済生会の櫛引久丸常務理事の「ソーシャルインクルージョンと地域活性化を掛け合わせた商品ができないか」という一言でした。小樽市への相談を皮切りに、地域のシンボルであるおたる水族館、旧工場が観光名所となっている



プロジェクトに参加したおたる水族館の伊勢伸哉館長、角川獣医、本間宏信常務理事

北海製罐株式会社、3Dプリンターでの開発を得意とする札幌市のエムブイピークリエイティブジャパン、そして北海道済生



初回打ち合わせには北海製罐、おたる水族館、小樽市、エムブイピークリエイティブジャパンが参加

会の4者が集まり、ブレインストーミングを開始。北海製罐の缶詰とおたる水族館の海の生き物をどう結びつけるか議論を重

者さんへの対応もスムーズになったという声も上がっています。また、診療放射線技師の業務拡大により、CT室に配置されている看護師の一部を病棟に配置し看護を提供することができ、お互いが専門性を発揮し医療を提供することにつながります。

一方で、課題も見えてきました。例えば、技師によって静脈路確保の実施間隔が空くことがあり、技術の継続性に不安を感じるケース。また、現在CT室では造影剤投与のための静脈路確保、投与後の抜針を看護師が行なっていますが、診療放射線

技師は造影剤投与後の抜針を練習中です。これも技術確認修了後に独り立ちとなります。今後は、定期的な研修や振り返りの機会を設けることで、技術の維持と向上を支え、さらなる多職種によるタスク・シフト／シェアを進めていきたいと考

えています。タスク・シフトは単なる業務の分担ではなく、職種の枠を超えた信頼と連携とともに、医療の質を高める挑戦です。当院の診療放射線技師が果たす新たな役割に、今後も大きな期待が寄せられています。



おたる水族缶の中身。写真は「たべられる魚」

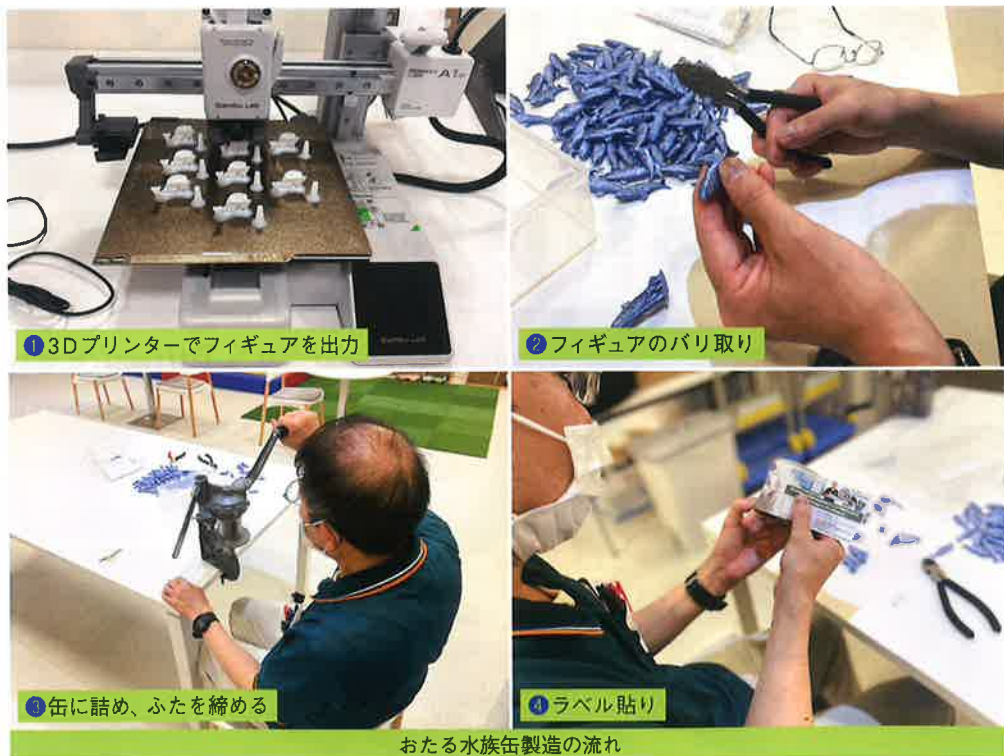
ねた結果「おたる水族缶」という名前が生まれ、具体的な商品化へと動き出しました。「海の生き物をデータ化し、3Dプリンターで出力した製品を缶詰に入れる」というアイデアは斬新でしたが、実現方法は容易ではありませんでした。スーパードで買ってきた魚をスキャンする案も出ましたが、水族館の古賀崇総務次長は「死んだ魚をスキャンしても、死んだ魚のフィギュアにしかありません」と

指摘し、生き物に精通し造形物制作の経験があるおたる水族館の角川雅俊獣医を紹介していただきました。角川獣医の協力のもと、トドやペンギンなど8種類の生き物のフィギュア原型が完成しました。

就労支援と販路拡大 誰もが関われる仕組みづくり

商品のメインターゲットが観光客と子どもであることから、缶の安全性も重要な課題でした。北海製罐の渡部一雄小樽工場長は、子どもが手を切らないよう工夫された缶と、手動でふたを締めるハンドシーマーの活用を提案。実際にサンプルを確認し、誰でも使用可能であると判断しました。缶のラベル貼りやフィギュアの封入、ふた締め作業に就労継続支援事業所の利用者が参加することを前提に、簡易な手法が求められたため、ハンドシーマーの採用が決定。これにより、多くの人が製造に関われる仕組みが整いました。

商品開発が順調に進む中、力を入れたのは販路開拓です。就労継続支援事業所が運営する「ぷりもショップ」一カ所だけの販売では十分な収益が見込め



① 3Dプリンターでフィギュアを出力

② フィギュアのバリ取り

③ 缶に詰め、ふたを締める

④ ラベル貼り

おたる水族缶製造の流れ

ないため、広報にも注力しました。インスタグラムなどのSNSでの発信に加え、北海道済生会としてプレスリリースを発信。これに地元の主要メディアである北海道新聞が反応し、その後読売新聞や地元ラジオ、テレビ

局など、さまざまなメディアで取り上げられるようになりました。メディアの影響は大きく、各店舗での取り扱いが次々と決定。商品の定価は1000円ですが、卸価格を550円に設定することで、販売店舗も北海道

障がい児と家族に「大きな希望」を…… 相談支援事業所カルミアを開所



〈大阪〉吹田療育園

当園では新規事業として、7月1日に相談支援事業所カルミアを開所しました。

この新事業所では、障がい児者やその家族から相談を受け、福祉サービスの利用に関する助言や情報提供、支援に係る計画の作成、関係機関との連絡調整を行います。

ソーシャルインクルージョン

済生会はソーシャルインクルージョン推進計画を実施しています。無料低額診療もなでしこプランも、この中に含まれます。だれも排除されないまちづくりを目指し、全支部・施設が1800の事業を展開します。

〈大阪〉中津医療福祉センター

連携士が企画し地域包括支援センター等と共働 「認知症」をテーマに地域住民向け講演会開催

当園の理念「障がいのあるお子さまとその家族が、それぞれの取り巻かれた社会の中で、いきいきと幸福感を感じながら生きていくよう援助する」をもとに、カルミアの花言葉「大きな希望」を胸に丁寧にサポートしていきます。

当園の利用者さんの中には、ご家族のみでプランニングしてしまい、適切な福祉サービスを受けられていないケースもあります。今後、当園の利用者さんだけでなく地域でお困りの方にも、本事業を通してよりよいサービスや環境を提供していきたいと考えています。

(相談支援事業所 管理者 寺岡雅恵)

大阪市北区大淀東・西地区住民向けの講演会を6月23日、大淀南医療福祉総合施設SKホールで開催しました。〈大阪〉中津病院と大阪北リハビリテーション病院の地域包括ケア連携士が企画し、北区大淀地域包括支援センターと北区ハートフルオレンジチームにより共催実施しました。テーマは「知りたい認知症〜これからも自分らしく生きるために〜」で、講師は大阪北リハビリテーション病院内科副部長の奥町恭代医師が担当しました。



紹介があり、認知症予防だけでなく、認知症になっても自分らしく生きていくまちづくりの大切さを学びました。

(地域連携・患者支援センター MSW 笠藤晋也)

▼おたる水族館の商品紹介



地域を巻き込む「水族館」体験型イベントでの活用も

「おたる水族館」事業は、商品開発と販売による就労継続支援事業所への収益還元だけでなく、地域企業との関係構築にも大きく貢献しました。

メディア掲載や小樽市長をはじめとする行政からの関心の高まりは、北海道済生会のブランド価値向上にもつながっています。6月には、おたる水族館

済生会も収益を得られるWIN-WINの関係築くことができました。

は地元ラジオ局が主催する「お土産グランプリ」で金賞を受賞しました。今後は新千歳空港の売店でも販売される予定です。

また、「水族館づくりワークショップ」の事業化も計画。これは「白色のフィ



ワークショップでは白色のフィギュアに参加者が色を塗り、自分で缶に詰める

ギュアに色を塗り、自分で缶のふたを締めて持ち帰る」という体験型イベントです。小樽市内のイベントや全国の済生会フェアなどでの出展を検討しており、すでに小樽市内で2回開催され、7月には地元幼稚園でも、水族館遠足後の思い出作りとして実施される予定です。



開発に関わったメンバー

済生会のトップページからアクセス!!

<https://www.saiseikai.or.jp>

熊本済生会ほほえみ「パン工房ふわり」 TEL: 096-223-3428
松山ワークステーション「なでしこ」 TEL: 089-916-6959
小樽ふりもばっそ「おたる水族館」 TEL: 0134-32-9780



炭谷理事長が山口刑務所の実務者研修で講義 “やさしさ”や“思いやり”を求める

山口地域ケアセンター

7月1日、山口刑務所で介護福祉士実務者研修を受講する受刑者8人を対象に、済生会の炭谷茂理事長による「社会保障制度」の講義が行なわれました。

講義では、済生会の歴史や活動に触れながら、日本と世界の社会保障の歩みや仕組みについて、分かりやすく解説。受刑者からは「将来、介護の仕事をしたい。今できることはありますか?」という質問もあり、炭谷理事長は「高齢の受刑者で困っている人がいたら、ぜひ手伝ってください。介護に必要なのは、やさしさや思いやりです」



と励ましの言葉を送りました。受講後の感想には「制度について考えたことがなかったが分かりやすかった」「これまで他人を思いやれず人を傷つけた。これからは人を助けていきたい」と、更生に向けた前向きな声が寄せられています。

(総合企画課 広報係主任 西川愛子)

安心できる社会の実現に向けて 「社会を明るくする運動」に参加

〈埼玉〉川口総合病院

7月1日、更生保護観察協会川口支部主催の「社会を明るくする運動」駅頭PR活動に、当院職員4人が参加しました。川口駅と西川口駅前で、保護司会など地域の関係者とともに啓発品やチラシを配布し、犯罪予防や再犯防止への理解を呼びかけました。

本運動は、全ての国民が犯罪の防止と刑余者たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪のない明るい社会を築こうとする



石川県地域生活定着支援センター

金沢刑務所視察を通じて 医療の支援の現状を学ぶ

石川県済生会では、県の委託を受け、高齢または障害のある刑余者の社会復帰や、生活を支援する石川県地域生活定着支援センター事業を実施しています。刑務所内の矯正医療の現状と、全国的な運動です。当院もこの趣旨に賛同し、後援しています。

社会復帰を図る受刑者支援を学ぶため、6月19日にセンターおよび金沢病院の職員ら12人で金沢刑務所の視察を行いました。

刑務作業を行なう工場や居室の見学を通じて、受刑者の体調管理や食事についても、アレルギーや宗教などに配慮されていることを知りました。

刑務所内の収容人数は減少傾向にある一方で、高

また、「なでしこプラン推進計画」の一環として、刑余者への支援にも取り組んでおり、更生保護施設と連携して健康診断や予防接種などを実施しています。今後も地域と連携し、安心できる社会づくりに貢献してまいります。

(医療安全管理室・安全担当部長 櫻井雅彦)

年齢者の割合が全体の15%程度と増えつつあり、基礎疾患のある受刑者に対する通院の動機付けや、適切な施設の選択が難しいという課題も見えました。医療や福祉の支援が必要な刑余者に対し、当院としても協力していかなければならないという思いを強くしました。

(石川・金沢病院 済生記者 浅野幸恵)



障害者雇用の可能性を広げる 焼きたてパン販売

「MARINE CAFE」始動!

当園では7月2日に横浜若草病院で焼きたてパンの販売を始めました。この事業は障害者の働く機会を広げるとともに、地域への貢献を目指して始めたもので、横浜若草病院協力のもと、月・水・金の週3日、病院内で焼きたてパンを販売します。

翌日は隣接するわかくさ保育園やわかくさ訪問看護ステーションにも伺い、「私たちが作るパン」を園児たちに知ってもらおうと試食用のパンを提供。園

児たちの興味津々な表情がとても印象的で、楽しいひとときを共有できました。また、訪問看護ステーションの皆さんからは「次回の販売が楽しみです」との温かい声掛けもありました。

現在は、一日に250個ほど製造し、ほぼ完売できている状態です。地域との絆を深める交流を大切にしつつ、地域に愛されるパン作りに努めていきます。

(済生記者 日高 純)





© 2025 SANRIO CO., LTD. APPROVAL NO. GS660008

子どもたちに笑顔と元気を届ける



大切に抱きしめる様子など、温かな雰囲気にも包まれました。同院職員約100人とも記念撮影があり、「キティちゃんと会えてうれしい！仕事の励みになる」と弾んだ声で話していました。

同日、中津看護専門学校ではハローキティが世界中の病気の子どもたちに笑顔が届ける動画を40人の看護学生が視聴。患者さんの心に寄り添う大切さを学びました。その後、ハローキティとの記念撮影では「かわいい」「キティちゃん大好き！」と普段の学びとはひと味違った体験に大興奮の様子でした。

「Sanrio Nakayoku Project」を通じて、済生会の各施設に笑顔の輪が広がりました。

(本部広報課 杉山 菜央)

ハローキティが 中津医療福祉センターを訪問



大阪・中津医療福祉センターに、サンリオの人気キャラクター・ハローキティが来訪しました。

社会貢献活動「Sanrio Nakayoku Project」の一環である「Sanrio Character Aid」として実施されたこのイベントでは、子どもたちや看護学生、職員にたくさんの笑顔と元気が届けられ、ハローキティとの優しいふれあいとサプライズプレゼントが、各施設に温かい交流の輪を広げました。

7月8・9日、ハローキティが当センター内大阪整肢学院、中津病院、中津看護専門学校の3施設を訪問しました。

「Sanrio Character Aid」はハローキティが病院や施設、被災地を訪れ、多くの人々に笑顔をお届けする活動です。子どもたちやそのご家族だけでなく、関わる医療・福祉関係者にも大きな元気を届けている取り組みとして、国内外で高い評価を受けています。

7月8日、医療型障害児入所施設の大阪整肢学院では88人の子どもたちが参加。ハローキティが登場すると、「わー！キティちゃんだ！」「やったあ！」と大喜び。「幸せなら手をたたこう」の音楽に合わせてハローキティと一緒にダンスをし、笑顔あふれる時間を過ごしました。普段は緊張しがちな子どもも、キティちゃんの優しい仕草に心を開き、「また会いたい」「今度はいつ会える？」との声が聞かれました。

9日の中津病院内の保育所・病児保育室の子ども4人がハローキティから一人ずつサンリオキャラクターのマスクをプレゼントされました。マスクを手に嬉しそうに笑う子や、

地域のいのちを守るだけでなく 生活と心の豊かさを 願って



【上／第1部】左から伊東末優さん（ピアノ）、柴山晴美さん（ソプラノ）、柴山昌宣さん（バリトン）
【下／第2部】昭和音楽大学の学生らによるオペラ「魔笛」のステージ



伊東所長とご家族、お手伝い隊の皆さん。終演後のロビーで、充実感とホッとした気持ちとで笑顔がはじける



済生会陸前高田診療所 創立10周年記念演奏会

アンコールでは観客・出演者皆の「故郷」の歌声がホール全体にあたたかく響き、感動のフィナーレに。観客も含め参加者全員で記念撮影



開会式の挨拶



済生会陸前高田診療所 創立10周年記念演奏会

2

015年10月、東日本大震災で甚大な被害を受けた（岩手）陸前高田市に、復興診療所として開設、診療を開始した陸前高田診療所。今年創立10周年を迎えることを記念し、6月15日、陸前高田市民文化会館・奇跡の一本松ホールで演奏会が開催されました。地域住民や関係者など約600人が来場し、会場は活気とともにあたたかい雰囲気になりました。（本部広報課長 河内淳史）



陸

前高田診療所は2015年10月、スーパのプレハブ倉庫を改修した仮設診療所で診療を開始し、17年2月、同市気仙町に本設の診療所を開設しました。現在、診療所の登録患者数は1万1200人を超え、受診者数は延べ13万5000人に達しています。この診療所設立のために奔走した伊東絃一（けんいち）所長は震災当時、茨城・常陸大宮済生会病院の名譽院長でしたが、妻・カツ子さんの故郷でもある陸前高田市の復興を医療から支えようと、74歳で赴任。これまで地域医療に尽くしてきました。

伊東所長は「診療所を中心に町ができるように」との思いと同時に、医療や介護だけでなく、生きがいやコミュニケーション、笑いがあつてこそ、そして「生活」をケアしてこそ、地域包括ケアだといいます。診療所の創立10周年を機会に、感謝を伝えるとともに患者さんや市民のために何かやりたいと考えたときに、いわゆる「式典」ではなく「演奏会」の形にしたのは、日頃本格的なクラシック音楽に触れる機会の少ない陸前高田の人たちに美しい音色や歌声を届けることで、心が豊かになり、コミュニケーションの輪が広がればという期待もありました。

伊東所長のお孫さんが学ぶ、昭和音楽大学・柴山昌宣教授の協力を得て、教授門下の学生さんが演じるオペラのステージをメインにプログラムを企画。演奏会の準備や当日の運営は、診療所スタッフをはじめ、患者さんを中心に結成されたボランティア「お手伝い隊」が担当するなど、まさに地域と人との縁がたぐひなく、手作りの演奏会となりました。

開会式では伊東所長、済生会本部の炭谷茂理（しげふみ）理事長、岩手県済生会の高橋敏彦（たけし）支部長が挨拶。佐々木拓陸（たつ）前高田市長、被災者・患者・市民代表として米谷春夫（はるお）さんが祝辞を寄せました。

演奏会は2部構成で、第1部は「心に残るイタリアの歌、日本の歌」をテーマに、昭和音楽大学教授でバリトン歌手の柴山昌宣（しやま しょうけん）さんがソプラノ歌手・柴山晴美（しやま はるみ）さんとピアノリスト・伊東末優（いとう しげよし）さんとともに9曲を披露。円熟した美しい調べに会場は酔いしれました。第2部は、柴山門下生約30人によるモーツァルト・オペラ「魔笛」のステージ。瑞々しさあふれる熱演が繰り広げられ、圧巻のフィナーレには満席の会場から大きな拍手が沸き起こりました。

終演後は「声量がすごくて驚いた」「とても楽しかった。貴重な時間を過ごせた」などの声が聞かれ、大盛況の会場ロビーは豊かなひとときを共有した来場者の笑顔でいっぱい。伊東所長は「これからも市民のための診療所としての役割を果たしていきたい」と抱負を語りました。

本誌10月号の特別巻頭企画で、同診療所開設10年の歩み特集します

露の団姫

プロの落語家兼尼さんとして、
高座をはじめ、テレビやラジオなど、
全国を飛び回る活躍ぶり。
住職を務める天台宗道心寺では、
縁日寄席やお悩み相談を定期的に
行っている。そんな露の団姫さんに、

落語家と尼僧の
二刀流を目指した
経緯や厳しい修行から
得たもの、これから
目指したい姿について
聞きました。

Maruko Tsuyuno

この人
Vol. 183

二刀流が自分らしい生き方

落語と仏教をつなぐ役目を果たしたい

Text：香川けいこ
Photos：馬場稔子



つゆの・まるこ 1986年生まれ、静岡県出身。子供演劇がきっかけで芝居に興味を持ち劇団に入団。舞台をはじめ、NHK『中学生日記』にもレギュラー出演。2005年、高校卒業と同時に露の団四郎に入門。3年間の修行を経てプロの落語家となる。2011年、天台宗で出家。比叡山延暦寺で修行。2021年、兵庫県尼崎市に天台宗道心寺を開山。縁日寄席やお悩み相談を行なうなど、落語家と尼僧の二刀流として活躍中。著書は『プロの尼さん』『お寺を建てる！』など多数。

18歳で露の団四郎さんに弟子入りし、25歳のとき天台宗で出家した露の団姫さん。お母さまの存在が二刀流への道を切り拓いたそう。「落語家と尼さん、どちらか一つの仕事を选べず悩んでいたとき、行政書士とカウンセラーの仕事をしていた母の姿を見て、『仕事は一つに絞らなくてもいいんだ』と気づきま

した」
落語の大師匠である二代目露の五郎兵衛さんの自宅で3年間の住み込み修行。さらに僧侶になるため、約3〜4年比叡山へ通い続けて出家し、厳しい修行を経験。当時の様子をこう振り返る。「大師匠からは落語家としてはもちろん、生き方も学ばせていただき、比叡山行院では

自分自身と向き合うことで、仏教の教えを信じて正しく生きることが大事だと教えていただきました」

今年で芸歴20周年の節目を迎える団姫さんは、しっかりと先を見据えている。「芸歴20年とはいえ、落語界ではまだまだ若手。師匠の芸を受け継ぎ、益々精進したいと思います。『弟子を3人育てたら師匠に恩返しできる』という言い伝えがありますので、いずれは弟子をとりたいですね。尼さんとしては縁日寄席やお悩み相談をこれからも続け、少しでも明るい気持ちになってももらえれば。寄席に来た方が仏教に興味を持ってくれたり、その逆も。二刀流が落語と仏教をつなぐきっかけになればうれしく思います」

今日は何の日？ まるこの日めくり仏教小咄

テレビでも活躍するまるこさんが、仏教に絡めたクスリとくる小咄366日分（うるう日含む）。『今日は何の日？』に関連する法話をして、そして最後に落語家らしくオチをつける、というスタイルを考えました。そこから本書の原点ともなる、「記念日」×「法話」×「落とし咄」という日めくり仏教小咄が生まれたのです。（本書より）

■春秋社 露の団姫著 2,420円

■露の団姫公式ホームページ <https://www.tsuyunomaruko.com/>



口福につぼん

吉井省一

の中へ保存用オイルに漬けた花を入れたもの。気軽に花を鑑賞できるインテリアとして注目されています。



済生会の「病院・施設」がある
県内の市町村

よいい・せいいち 一般社団法人日本作詩家協会理事。コピーライター時代に老舗百貨店の食の通販誌で約30年執筆に携わり、試食した食品の数は1万点を超える。

私は小学校時代を長野県伊那市で過ごしました。諏訪湖から流れ出した天竜川が、伊那市を貫き、南アルプスと中央アルプスの間を滔々と流れ下った先にあるのが、飯田市。

この飯田市近辺には奇岩・巨岩に囲まれた溪谷美を堪能できる名勝「天竜峡」があり、小さい頃に「天竜ライン下り」という川下りの舟に昔ながらの編み笠をかぶって、水しぶきを浴びながらキャーキャー叫んで乗った思い出があります。

3000m級の山々を望むここ飯田で生まれた人気のスイーツが「フラワーゼリー」。ゼリー通を自任する私お薦めの涼菓です。どうぞご期待ください。

誰もが目を奪われる「食べるハーバリウム」。皆さんは「ハーバリウム」をご存じですか。もともと「植物標本」を意味する言葉で、小瓶



べるもよし。使われているゼリーは、試行錯誤を重ねた末に、ジュレのような食感やのどごし、そしてライチ味へと辿り着いたとのこと。お洒落なフォルムの器に入っ



飯田市はバラエティ豊かな果物が穫れるフルーツ王国。果物を美しく美味しく仕上げる「わらいみらい」のスイーツの発想は、そんな風土から生まれたのかも知れない

たフラワーゼリーは冷凍で届いた時は白く凍っていますが、解凍するうちに透き通り、中の花びらや果実が色鮮やかに浮かび上がってきます。これを持つのも楽しみです。小瓶の中で美しく咲く花びらは、その時期が見頃のもののなので、季節を目で楽しめます。もちろん、花も果物もまったく同じ形のものは無いので、パティシエが色や形のバランスを考えながら、一番きれいに見える配色でゼリーの中に一つひとつ



天竜川を木造船で下る遊覧船は歴史があり、造船技術・操船技術と併せて飯田市民俗文化財に指定されている
(飯田市教育委員会提供)

時間をかけて丁寧にレイアウトしているのです。

プルプルのゼリーの中で 咲き誇る花とフルーツ

見とれるほど美しいのですから、まずは撮影タイム。きれいに撮るポイントは、瓶の後ろから光を当てながら撮影するということ。映えること間違いなし。それでは、さっそくいただきます。ゼリーの程良く冷えた口当たりとプルプル感が絶妙。ほんのりと上品なライチの香り。今の時期に入っている花はベリタス、スナッパドラゴン(金魚草)、そして何となくでしこ。果物は一年を通してグレープフルーツ、レモン、いちご、桃、みかんが入っています。花は思った以上に柔らかくし



職人の手作業で一つずつ丁寧に作られている



見てうっとり、食べてにっこりの「ハーバリウム風フラワーゼリー」。ひとりで楽しむだけでなく、「ねえねえ、見て見て」と誰かに見せたいくなるビジュアルは、人気のテレビ番組などでも紹介されているほど美しい



レインボーロールケーキ(左)や太っちょマカロン(右)など、テーブルに置くだけでワクワクしてくるお菓子にも心が騒ぐ

なやかで、果物は噛むほどにジューシーな果汁があふれ出ます。半解凍の状態ですべてみると、舌の上でスッと溶けるゼリーの爽やかな食感と、シャリシャリした涼感とのコントラストを楽しむことができました。母の日の時期にはカーネーションの花を入れるなど、季節のイベントに合わせて中の花も変えているので、贈り物にしてもきっと喜ばれそう。まだまだ厳しい暑さが続く今年の夏。見た目も涼しげな「フラワーゼリー」で、とっておきのティータイムを過ごしてみたいかがでしょうか。



ハーバリウム風フラワーゼリー 4個セット
3,980円(税込・送料別)
賞味期限……商品到着後冷凍1カ月(解凍後は冷蔵2日以内)
お取り寄せ・お問い合わせは
合同会社わらいみらい
〒395-0821 長野県飯田市松尾新井6222-1
TEL: 070-8362-7095
ホームページ: <https://waraimirai.com>

カラフル チョコバナナ

作品 いまいみさ

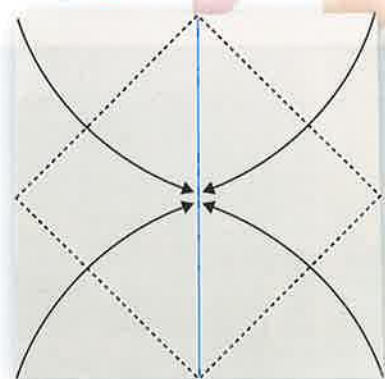


— 山折り
- - - 谷折り
↺ 裏返す

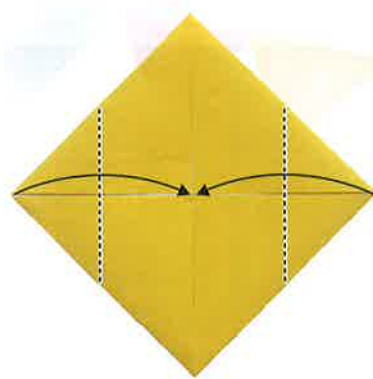
バナナ



1 半分に折り目をつけてから中心に折る



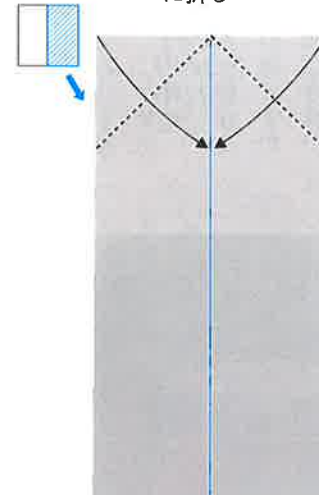
2 中心に折る



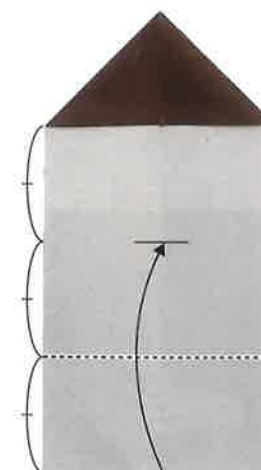
チョコの部分



1 半分に折り目をつけてから中心に折る



2 図のように1/3を折る



3 図のように角を折る



4 半分に折ってもどす



だれでもかんたん
てづくり
おもちゃ

組み方



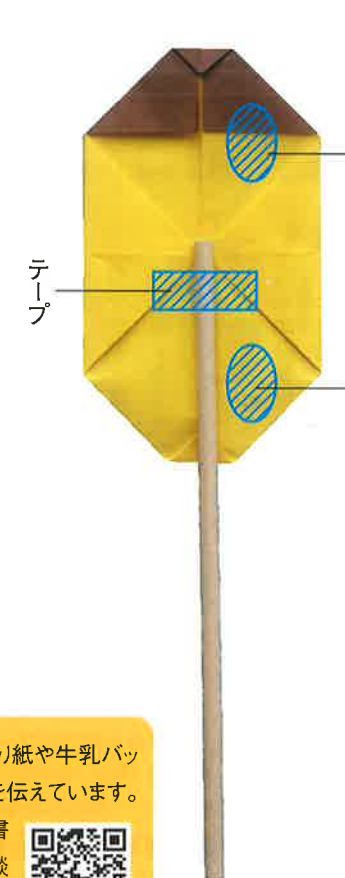
1 図のようにチョコの三角部分にバナナ③をさしこむ



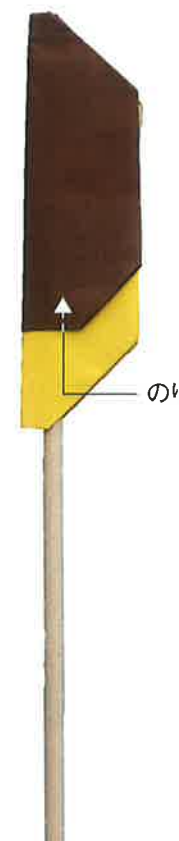
2 上下を1cmくらい折る



3 ストローをテープではり、半分に折ってのりでとめる



4 チョコの下にのりをつけてはり合わせる



5 丸シールやおりがみなどを切ってはり、完成



チョコバナナで
「お店屋さんごっこ」も
たのしいよ♡



【いまいみさ】手づくりおもちゃ作家。折り紙や牛乳パックなどをリサイクルして手づくりの楽しさを伝えています。著書に「365日たのしい折り紙」(日東書院)、「12か月のおりがみ壁飾り」(講談社)など39冊。最新刊は「1年中使える! 決定版おりがみ図鑑」(講談社)。



動画もcheck!

作品・折り図: いまいみさ おりがみ協力: 株式会社トーヨー



topics

若草園から一般企業に就職 退園後のフォローアップ

〈神奈川〉横浜金沢若草園

6月2日からANAエアポートサービス株式会社
に就職した田中裕紀さんの退園後のフォローアップとして、6月18日に会社を訪ねました。



採用となりました。空港業務は多岐にわたりますが、その中で職員のユニホーム管理業務を障害者雇用の一環として創出し、多くの障害者の方が従事しています。

田中さんの上司は「現在の職務に積極的に取り組んでいいます」とコメント。田中さん本人も「13年間、若草園でクリーニングや清掃の作業訓練を行なってきました。一般企業での業務には不安も感じますが、社会人として前向きに挑戦したいと考えています」と話してくれました。

（済生記者 日高 純）

★就職おめでとうございませう！ 若草園での経験を生かし、ANAでの新たな挑戦を応援しています。

（本部広報課 大嶋 薫）

静岡市心身障害者ケアセンター 開所20周年記念行事で 腹話術やギター演奏も

6月23〜27日、当事業所内で開所20周年記念行事を開催し、5日間で延べ119人の利用者さんが参加しました。20周年の節目に例年とはひと味違う催しを、ということ企画されま

した。



記念行事では、地域ボランティアの皆さんが日替わりで来所。「夢一座」4人による南京玉すだれや腹話術、「クラシックギターアンサンブル MIX」4人のギター演奏、増田ふみ子さんのブルーノートが披露され、大いに盛り上がりました。参加した利用者さんからは「どの演目もなかなか近くで見ると、聞く機会がないのでとてもよかった」という声が多く聞かれました。

20周年という節目を機に、今後も地域とのつながりを大切にして自立支援事業所としてさらに発展していきたいと考えています。

（済生記者 西野正美）

全国初の取り組み！ 企業向けフレイル啓発活動

6月30日、7月1日の2日間、イオン穂波ショッピングセンター



1の従業員に向けたフレイル研修を当地で行ないました。一般企業の従業員に向けたフレイル研修は全国初の取り組みで、地域で活動するフレイルサポーターからの発案で始まりました。研修会には同ショッピングセンターの従業員の約6割にあたる158人から参加申し込みがあり、当日参加も6人ほどいました。

これまでフレイル予防の啓発は高齢者が対象でしたが、今回のように若年層にも知ってもらうことで、早めの予防にもつながります。

参加者からは「売り場でフレ

イル予防の食品を販売しているので、フレイルについて知ることができてよかった」などの意見がありました。この取り組みが全国にも広がっていくように願っています。

（経営企画室長 春口勇介）

クリーニング工場が リニューアルオープン！

済生会ウイズ（就労継続支援A型・B型）では昨年度から進めてきたクリーニング工場の改修工事が無事完了し、4月11日にオープンセレモニーとして、テープカットや工場見学会などを実施しました。

これまではユニホーム、病院寝具などの洗濯を一つの工程で処理していましたが、新たに「ユニホーム工場」「病院寝具工場」を独立させたことで、処理量は約1・8倍に増加。新しい機械も多数設置され、今後は作業効率や品質のさらなる向上が期待されます。

今回の改修ではクラウドファンディングで各所からご支援いただきました。全国的に病床数が減少傾向にある中、病院寝具



滋賀県病院

感謝の気持ちを込めて ボランティア総会

5月29日、ボランティア総会を開催しました。

今回は、日頃から当院を支えてくれているボランティアの西村峰雄さん、赤井洋子さん、田中治さんの3人に感謝の気持ちを込め、表彰式を行いました。



前列左から田中さん、赤井さん、西村さん

令和5年度・6年度の活動実績によると、西村さんは延べ111日336時間、赤井さんは延べ80日153時間、田中さんは延べ21日70時間、外来ボランティアの活動を実施。また、西村さんは昨年度で外来ボランティア活動10年目を迎えたため、その表彰も併せて行ないました。



実習生受け入れ 職場全体が前向きに

（福岡）大牟田病院

んからは患者目線の「困りごと」や「よくある相談」などの声が寄せられました。

（済生記者 鵜飼健成）

6月9日から20日までの期間、特別支援学校の生徒1人を実習生として受け入れました。

今回の実習では、放射線科でのバーコード読み取り業務や、窓や手すりの清掃作業などを実施。実習生は戸惑いながらも、一つひとつの業務に丁寧に取り組み、自信を持って行動できる

今年は豊作を期待！

さいせい

当施設の認知症棟の屋外ベランダでは家庭菜園を行なっています。昨年度は不作でしたが、今年は甘いイチゴがたくさん収穫でき、利用者の皆さんが「甘くておいしい」と喜んでいました。柚子の木にもたくさんの実がなっており、豊作が期待されます。



6月下旬には、利用者さん3人と職員2人で、キュウリやナス、ゴーヤ等の夏野菜、ヒマワリやコスモスの花の苗植えを行いました。皆さんとてもいきいきとした表情で、まるで職人のような手つきで作業していました。手入れや水やりも毎日行ない、すくすくと作物が育ってきています。



影響を与え、職場全体が前向きな雰囲気になりました。最終日には、実習生の表情に達成感があふれ、自信が感じられました。今回の実習が、彼にとって今後の成長や将来に向けた一歩となることを願っています。（済生記者 松田あゆみ）

しい時間を過ごしています。収穫できる日が楽しみです。

（済生記者 谷口知恵子）

〈長野〉佐久市特養シルバー ランドみつい

ボランティア合唱団の 記念コンサートに感動！

6月15日、佐久平交流センターで開催された佐久ボランティア合唱団のコンサートに、当施設の利用者4人が招待されました。

このコンサートは、福祉施設訪問を続けてきた佐久ボラン



ティア合唱団の創立30周年を記念して大ホールで開催され、230人もの観客の前に、祝福の歌声が響き渡る特別な一日となりました。

コンサートでは、「瀬戸の花嫁」などの美しい合唱やピアノ演奏のほか、「手のひらを太陽に」を皆で歌ったりと盛りだくさん。参加した利用者さんからは、「楽しかった」「また行きたい」といった声が寄せられ、音楽を通じて新たな交流が生まれたことが何よりの喜びとなりました。

次回はぜひ、当施設での発表を期待しています。

（済生記者 山浦裕子）

〈広島〉特養たかね荘こやうら プラチナ認証法人に認証

広島県済生会の老人福祉施設、老健はまな荘・特養たかね荘・特養たかね荘こやうらの3施設は、この4月から「魅力ある福祉・介護の職場宣言ひろしま制度」プラチナ認証法人の仲間入りしました。

安心して長く働ける優良法人を認証・応援する同制度の



7月1日現在の認証法人数は466、うち上位ランクのプラチナ認証法人は36法人で、いわば福祉・介護業界のトップランナーです。

プラチナ認証法人に認証されると、就職フェアの出展料割引に加え出展ブースの位置が優遇されます。さらに、プラチナ認証法人限定セミナーや情報交換会へ招待されるほか、プラチナ認証法人をPRする広告媒体へ特別価格で掲載できるようになります。

この認証取得に満足することなく、さらに利用者さんや職員から喜ばれる施設づくりを目指していきます。

（済生記者 佐藤 聡）

〈山口〉下関総合病院 20年間使用してきた PET装置への感謝

6月28日、当院で20年間使用してきたPET装置の使用を終了しました。

2005年当時ではPET検査は希少で、山口県で2番目の導入。FDG（18F）フルオロデオキシグルコース）デリバリ検査では県内初でした。ピーク時の2008年には年間810件でしたが、PET装置を導入する病院が増えたため徐々に減少し、近年では年間



写真右が筆者

400件程度となりました。

この度、メーカーサポート終了に伴い更新を決定。20年間、故障などで検査を止めることは一度もなく、PET黎明期から長い年月をともにしてきた信頼のおけるパートナーに、感謝の気持ちでいっぱいです。

新しい装置は地域がん診療連携拠点病院である当院を支える役割を担うと同時に、トラブールなく長く稼働してほしいと願っています。

〈診療放射線技師 榊田米治〉

〈大阪〉中津看護専門学校 学校祭で地域と交流

6月25日に看護学校祭を開きました。地域の高齢者などに向けた健康チェックとレクリエーションを実施。地域の自治会長や地域活動協議会の皆さんにチラシの配布をお願いし、地域住民26人と施設職員・中津医療福祉センターの入所者さん・入院患者さん13人が参加しました。

コロナ感染症や学校の移転などで、学校外の方と接する機会がしばらくなかったこともあり、学生たちはいきいきとしていました。高齢者の方々も健康チェ



ックの後、風船バレー、輪投げなどに挑戦。折り紙をしながら昔話をしてくれるなど、学生との交流を楽しんでくれたようでした。

学生には、健康関連のイベントの企画運営や、ソーシャルインクルージョンについて考える良い機会となりました。

〈副校長 毎川京子〉

滋賀県病院 看護の心を届ける3週間

5月12日は「近代看護の母」フロレンス・ナイチンゲールの誕生日にちなみ「看護の日」とされています。これに合わせて当院では「看護の心をみんなの心に」をテーマにしたイベン



でにぎわい、子どもたちが楽しそうに体験する姿が印象的でした。

〈済生記者 鶴飼健成〉

トを開催しました。

5月12日〜30日には、エントランスホールで当院看護士の写真とメッセージを掲載したパネルポスターを展示。5月24日には子どもたちを対象に看護体験イベントを開催しました。心臓マッサージやAEDの体験、包帯やガーゼを使った処置体験、ユニホームの試着など、看護を身近に感じられるさまざまなコーナーを設けました。

当日は80人を超える家族連れ



健康・医療・福祉を学ぶ フェアで病院を身近に

静岡済生会総合病院

6月7日、当院で「インクルーシブ社会実現のために地域をつなぐ医療と福祉」をテーマに、「済生会フェア2025」を開催。本年度は、無印良品、静岡茶商工業協同組合、（一社）静岡県eスポーツ連合をはじめ、多くの新たな企業・団体の協力を得て、全52の体験ブースや七つのステージパフォーマンス、抽選会などを通じて、健康・医療・福祉について楽しく学べる企画を展開しました。

当日は開場前から行列ができ、予定より10分早く開場。幅広い年齢層の皆さん約2000人が来場し、終日にぎわいました。来場した皆さんからは「病院が身近に感じられた」「子どもと一緒に医療や福祉について学べる貴重な機会だった」といった温かい感想をいただきました。

〈済生記者 酒井あい〉

topics



立ち上げました。
7月3日には、当院会議室でキックオフミーティングが開催され、医師2人、看護師4人、臨床工学士1人、事務部4人の合計11人のメンバーが参加、佐々木祐一郎病院長と住田広明事務部長も加わり、13人が一堂に会しました。
ミーティングでは、患者さんがより安心して透析生活を送れるような新たな試みの提案や、院内の受け入れ体制の整備など、多岐にわたる意見交換が行なわれました。

（済生記者 亀尾美子）

「顔の見える連携」を大切に 6年ぶりの地域連携の会

7月17日、当院5階会議室・食堂で、コロナ禍で中止となっていた「向島病院地域連携の会」を6年ぶりに開催しました。

今回は初のハイブリッド方式での開催で、15施設から対面で16人、オンラインで10人が参加しました。はじめに4月からの新外来である手外科と担当の亀山真医師を紹介。また、この6年間の当院の変化（在宅医療推



進部の新設、スマートベッドの導入、CT・MRIの更新、東京都災害拠点連携病院の指定、在宅療養支援病院の認定、医療機能評価の認定、地域包括医療病棟の運用開始、病院用車両の導入など）を説明しました。
その後の懇親会では活発な意見交換が行なわれ、「顔の見える」連携体制の構築を推進する機会となりました。

（済生記者 加藤建志）

〈山形〉はやぶさ保育園 最後まで走り切ったよ！

6月7日、7年ぶりに全園児98人で盛大に運動会を開催することができました。



お家の方にかっこいい姿を見てもらいたいと、日々全力で練習してきた子どもたち。当日は天候にも恵まれ、晴天の中、ご家族と一緒に身体を動かしたり、友だちと協力したりして競技に取り組みました。子どもたちのキラキラと輝く笑顔からは、練習の成果が十分に感じられました。

最終競技は年長児の全員リレー。アンカーが転倒してしまいました。仲間のためにバトンをゴールまで！と最後まで諦めずに走り切りました。ゴール後の、悔し涙を流す子どもたちの思いが観客席にも届き、感動的



な運動会に。最後にはピッカピカのメダルをもらい、達成感に満ちあふれていました。
運動会を通して、一回りも二回りも大きく成長した子どもたちでした。

（済生記者 熊谷舞寿美）



〈大阪〉泉尾特養第二大正園 学生とともに楽しむ 「夢プロ」ビアガーデン

6月20日、大阪保健福祉専門学校（通称「夢プロ」）の学生15人が「夢を叶えるプロジェクト」（通称「夢プロ」）の一環として、地域交流センターでビアガーデンを開催してくれました。当園3階・4階の入居者さん25人が参加し、学生や職員15人と一緒に夏のひとときを楽しみました。

射的やフルーツポンチ、いなり寿司、フランクフルト、焼きそばなど屋台風の出店が並び、お祭りの雰囲気味わえる内容



に。学生たちが事前準備から当日まで、心を込めて取り組んでくれたのが印象的でした。
「夢プロ」を通して、学生と入居者さん、職員が心を通わせ、笑顔と感動に包まれたかけがえない夏の思い出となりました。

（済生記者 黒木洋輔）

〈埼玉〉加須病院 救急隊との合同訓練で 病院の強みを磨く

6月26日、埼玉東部消防組合の救急隊とともに総勢約25人で「ワークステーション型ドクターカー」の合同練習を行いました。

訓練では骨盤骨折の疑いの事例をもとに、専攻医の山口達也医師をはじめ、看護師など今後ドクターカーに関わるメンバーの教育も兼ねて行なわれました。先着した救急隊の活動として、現場状況の観察や可能な範囲の応急処置などを見学後、病院搬送後の治療方針を決定する一連の流れを確認。また、救急車に乗り、揺れる車内での気管挿管を体験。このような貴重な経験ができるのも、常駐型ワークステーションを併設している当院



の強みです。
今後も定期的に合同訓練を行ない、消防との連携強化を図るとともに、より質の高い救急医療提供につなげます。

（済生記者 蓬田絵里子）

〈鳥取〉境港総合病院 新チーム立ち上げて 透析患者に安心を

当院は境港市内唯一の透析可能医療機関として、腎不全患者の透析治療に取り組み、合併症の早期治療や入院治療にも対応。今年は腎臓および透析専門医の常勤医着任を受け、多様なニーズに対応できる体制拡充を目指し、「透析拡充検討チーム」を

過疎地域で出張健診・健康相談

〈三重〉松阪総合病院

5月31日、当院スタッフが飯高地域振興局へ出向き、ソーシャルインクルージョン事業の一環として、過疎地域における出張健診・健康相談を実施しました。

事前に申込みを行なった地域住民40人に向け、血圧・簡易血糖測定、超音波検査、心電図測定、医師による診察を実施。また希望者には、医師や管理栄養士への健康相談も行ないました。当院の石川英二腎臓センター長による、慢性腎臓病と生活習慣病をテーマにした健康講座も開催、元気に長生きするためのコツを、参加者に分かりやすく説明しました。



この取り組みは、他の地域でも実施予定で、これをきっかけに、たくさんの人が健康診断に足を運び、健康寿命の向上に結びつくことを期待しています。



待っています。

（医療情報システム室 主任 松本泰宣）

岡山済生会総合病院

新聞にE型肝炎の記事掲載

6月20日付の読売新聞朝刊「からだの質問箱」コーナーにて、読者からのE型肝炎についての問い合わせに回答し、記事と当院名が全国紙に掲載されました。

日本でE型肝炎ウイルスの土着が確認されたのは2003年。まだその疾患概念は十分に浸透していないと考



えます。新聞掲載を通して、E型肝炎について広く情報提供と注意喚起ができたことは、肝疾患診療に携わる筆者らにとってはありがたい機会でした。

全国済生会肝臓共同研究グループ（SLSG）でも研究テーマの一つにE型肝炎を挙げ、2013年から症例登録を実施。自治医科大学医学部感染・免疫学講座ウイルス学部門の岡本宏明名誉教授・客員教授のもとで行なっているE型肝炎ウイルスの遺伝子測定について、10年以上に及ぶ研究成果を近々誌上報告する予定です。（肝臓病センター主任医長 川上万里）

〈滋賀〉老健ケアポート栗東 頭と体を存分に動かして

7月17日、地域住民14人を招き、第4回よろずミントカフェを開催しました。今回は当施設職員によるチェロとピアノのミニコンサートに加え、認知症予防運動プログラム・コグニサイズを取り入れた体操を実施。コンサートでは、まるで人が



歌っているかのような心地よいチェロの音色と、優しく清涼感あふれるピアノの演奏に一同聴き入っていました。後半は演奏に合わせて「涙そうそう」「浜辺の歌」「川の流れるように」を皆で歌いました。

コンサート後の体操は声も出しやすく、皆でかけ声をかけながら、頭と体を存分に動かしました。

域に根差した活動が続けていきたいと思います。
（作業療法士 宮武 恵）



〈岡山〉憩いの丘デイ サービスセンター
利用者さんの声に応える
大鳥居が一夜にして完成

6月24日、利用者さんの「初詣にもうながしゅう（長い間）行っていないなあ」という呟きから鳥居の制作を開始。利用者さんは筆で色付け、職員たちは段ボールの魔術師の職員を中心に段ボールをカットし設計、運転手は組み立てに力を発揮しました。



〈新潟〉三条市地域包括支援センター 嵐南

ビンゴやライブで
日頃の感謝を伝える

三条市地域包括支援センター嵐南主催の「サンクスデーinまんなかテラス」が7月1日に開催されました。このイベントは、日頃から〈新潟〉特養長和園の福祉事業や地域でボランティア活動に尽力するまんなかテラスの皆さんに、感謝の気持ちを伝えるために企画されました。当日はまんなかテラスの参加者12人、ボランティア3人、職



員10人が集まり、ビンゴ大会や職員による歌のライブ、食事会で交流を図りながら楽しい時間を過ごしました。

参加した皆さんからは「お弁当がおいしかった」「すてきな歌声が聴けてよかった」などうれい声がたくさん聞かれました。

まんなかテラスが始まってから4年目を迎え、初めてのサンクスデーの開催。今後も皆さんと力を合わせて地域貢献活動を行なっていきたいです。

（特養長和園 済生記者 布施優子）

〈山形〉特養ながまち荘
居宅介護支援事業所
初の満足度調査

3月中旬から4月中旬にかけて、当荘居宅介護支援事業所を開設して以来初の満足度調査を実施しました。無記名での回答とし、担当ケアマネジャーの言葉遣い等の接遇面と、支援を受けることで生活が楽になったか等の支援面、計10個の設問について「とてもそう思う・そう思う・ふつう・あまり思わない・思わない」の五つの選択肢と自由記入欄を



設けました。

満足を示す「とてもそう思う・そう思う」の回答割合がすべての設問で80%を超え、おおむね良い結果になりましたが、中には「もっとサービスの情報を教えてほしかった」「連携が取れているようには思わない」などの意見も。いただいたご意見は真摯に受け止め改善し、今後の支援に生かしていきたいと思えます。

（済生記者 高見友郁）

〈熊本〉はあとランド

もらったじょうろで
夏野菜を栽培

熊本病院の院内保育園「はあとランド」では、41人の子どもたちが自然とふれあいながら「植物の成長を体験する」ことを目的に、トマトやキュウリなど夏野菜の栽培に挑戦。水やりを通じて、命の大切さや育てる喜びを感じてもらうため、6月10日から27日にかけて院内で子ども用じょうろの募集呼びかけました。

「お兄さん・お姉さんが使っていたじょうろを譲り受けることで、物を大切にする心も育んでいきます。」



歩となっています。

（熊本病院 保育室 今吉美沙）

〈大阪〉泉尾病院
未来の医療人を育てる
指導医たちの学びの場

7月12・13日、クロスウェーブ梅田で「全国済生会臨床研修指導医のためのワークショップ（SWS）」が開催されました。済生会の各病院が持ち回りで主



催責任を担う体制となっており、今年度は当院が運営を担当。平居啓治病院院長が主催責任者を務め、江口典孝副院長とともにスタッフ9人が円滑な進行に尽力しました。

SWSは、指導医が研修医

いネットワークを築いて、実り多い時間を過ごせるよう応援しています。

（済生記者 荒木愛美）



を育てる立場としての役割や関わり方について、グループワークやディスカッションを通じて深く学ぶことを目的としています。

（済生記者 中堂佑亮）

〈埼玉〉加須病院
ICLS講習の実施で
安心・安全な病院に

6月29日、院内で日本救急医学会認定のICLS講習会「第3回済生会加須病院こいのぼりICLSコース」を実施しました。当院の福島史人医師がコースディレクターを、埼玉東部消防組合の救急隊がインストラクターを務め、臨床研修医や看護師、放射線技師11人が受講しました。

ICLSとは、医療従事者のための蘇生トレーニングコースです。心停止した傷病者の発見後、どのようにチーム蘇生を展開していくかを、実際の現場に即したシミュレーション実習

によって、さまざまなシナリオで繰り返し行ないました。今後も継続して講習会を開催し、患者さんに適切で迅速な救命対応を行なえる人材育成に注力していきます。

（済生記者 蓬田絵里子）

〈神奈川〉横浜市東部病院
これからの未来を担う
看護師育成のために

6月9日、当院多目的ホールにて2025年度実習指導者養成講習会開講式が行なわれました。今後、実習指導を予定している保健師、助産師、看護師を対象にした講習会で、今年で10年目。定員40人のところ、県下から51人が集まりました。

開講式には当院の三角隆彦院長のほか、当院と横浜市南部病院、神奈川東部病院の看護部長、担当教員も列席。三角院長は「少子高齢化が進み、看護師の担い手が減っていく。そこで、質の高い看護師を育てることがポイントになる。指導する役割はますます大事になっていく」と集まった人たちに声援を送りました。





魔法使いの冒険
14:00-15:00
演で、ほかに
もボランティア
の方々がサ
ポートしてく
れました。当
日は、長期利
用者さん34人
短期利用者さ
ん2人、面会
に来ていたご
家族などが観
劇しました。
皆さんの演



いきいきとした人形劇を 間近で鑑賞

6月12日、当院併設の障害児(者)施設サルビアのプレイルームで、人形劇「魔法使いの冒険」が上演されました。これは特定非営利活動法人日産労連NPOセンター「ゆうらいふ21」の巡回公演「チャリティーきやらばん」の一環です。今回は、おはなしキャラバン「つばさ」の皆さんによる公演で、ほかに

(神奈川)重症心身障害児(者)施設サルビア

も受け入れの意義を再確認できるよい機会となりました。
(済生記者 定 淳志)



癒やしの音色、病院に響く

〈鹿児島〉川内病院

7月12日、当院2階の待合エリアで鹿児島高等専門学校吹奏楽部による演奏会が行なわれました。コロナ禍以降数年ぶりとなる演奏会で、ベッドや車椅子で観覧した患者さんやなでしこ保育園の園児など総勢100人で鑑賞しました。35人の学生が「勇気

(神奈川)横浜市東部病院

済生記者 荒木愛美

技や舞台のセット、小道具などが本格的で、観客が参加する場面もあり、参加者の皆さんもとても楽しい時間を過ごしました。



刑務官研修に 病院のセラピストが登場

神奈川県病院

3月14日、横浜刑務所の刑務官を対象とした研修会で、当院の石川哲也作業療法士が講師を務め、延べ40人が参加しました。今回のテーマ「高齢者の特性を知る」では、高齢者の身体的・認知的変化の解説や、高齢者体験キットを用いた演習を実施。実際に身体の変化を体感すること、より深い理解につながったとの声も聞かれました。当日は東神奈川リハビリテーション病院からも、講師として西村温子医師、江成千賀子看護師、田中敦史作業療法士、伊藤



医療事務専門学生が実習 実務体験で奥深さを学ぶ

〈北海道〉小樽病院

6月16日、札幌医療秘書福祉専門学校から、札幌市立小樽病院に実習に来た学生・金澤杏梨さんが当院で実習を行ないました。当院の実習は見学中心ではなく、外来受付、会計、外来診療補助などの実務を体験できることが特長です。

実習を終えた金澤さんは「学校で習った知識や教科書通りに物事は進みませんでした。患者さんに合わせた接し方、優先順位を考えて仕事することで臨機応変に対処できることを学びました」と、力強く語ってくれました。



さらに、「指導してくれた事務員さんたちはマルチタスクで業務をこなし、本当にかっこよかったです。私も早く皆さんに追いつきたい」と、自らの将来像を深めた様子。職員にとって



就労継続支援事業所の ケーキ出張販売

福島総合病院

6月20日、福島市にある「ちいさなケーキ屋さん aoba」による3回目の出張販売が行なわれました。aobaは、NPO法人あおばが運営する就労継続支援事業所(B型)の製菓作業によるお菓子を販売しています。法人理事長の小野隆章さんによれば、店舗販売

100%や「マッペン・サンバ」など全8曲を披露。途中、園児が指揮者に成り代わる場面もあり、場内を和ませました。普段は閉眼が多い入院患者さんが目を見開いて演奏に耳を傾けていた様子を看護師から聞き、

うれしく思いました。今後とも演奏会を定期的に行なうことで、病院の日常に彩りと活力を与えながら、患者さんやご家族、そして医療スタッフの心のケアにも寄り添っていききたいと思っています。
(総務課 久木野周作)

(済生記者 齋藤有里)

〈奈良〉老健シルバーケア まほろば

今日はいっぱい作ったぞ

6月13日、当施設で料理レクを行いました。メニューは「みんな大好き関西の味！焼きそば」です。

まずは調理工程を確認し、いざ開始。皆さん、包丁をうまく使ってリズムよく野菜を切っています。野菜や豚肉を炒め、隠し味に魔法の粉（粉末だし）を投入。麺を入れて蒸すこと3分、蒸気とともにほかほかの麺が現れ、ソースを加えると鉄板からいい匂いが。

「料理は久しぶり。家では一人分しか作らんけど、今日はいっぱい作ったぞ」「楽しいな。おいしそうなんができたわ」との声が。

今回は利用者さん14人が参加、ホットプレートで一度に6人分、合計24人分の焼きそばを作り、昼食として味わいました。当日の様子は1



階に掲示され、来訪者の皆さんにも施設内の雰囲気がかかると好評です。

（済生記者 林 嘉夏）

〈神奈川〉横浜若草病院 小学校から花のプレゼント

6月11日に、当院近くの関東学院小学校から鉢花の贈呈がありました。毎年この時期になると、児童たちが育てた花に、花のイラストとメッセージを添えて持ってきてくれます。



今年も暑い中、児童8人と先生3人が来院。アジサイ、プルンバゴ、ダリア、ペゴニア、サンパソルなどさまざまな種類の花を8鉢いただきました。それぞれが描いてくれた色とりどりの花のイラストや「いつも幸せをありがとうございます」などのメッセージに、心が温まります。

当院に小児科はありませんが、こうした機会を通して、地域の若い世代との関わりを持てればと思っています。

（済生記者 長澤伸哉）



〈山形〉養護（盲）老人ホーム 山静寿

迫力の歌声と生演奏を満喫

6月18日に民謡・演歌鑑賞会を開催し、39人の入所者さんが参加しました。視覚障がい者である入所者の皆さんに生の音楽を楽しんでいただくこと、山形を代表する民謡歌手の木村里美さんと大石田町民謡研究会の皆さんにご協力いただきました。会場となった当施設2階の



「なでしこ集会所」は、木村さんの迫力ある歌声と、尺八・三味線・太鼓の生演奏により、和やかな雰囲気になりました。10曲以上が披露され、入所者さんも「素晴らしい歌声と演奏だ

った」「また聴きたい」と大いに楽しんだようです。

（済生記者 丹 秀樹）

故人を偲ぶ水無月茶会

〈大阪〉軽費老人ホーム ケアハウスつつじ荘

6月30日に夏越の節供「水無月茶会」を開催し、入居者さんとご家族40人、職員4人が参加しました。夏越の節供は、1年の半が過ぎた6月の最終日に、残りの半年分の無病

息災を祈る行事です。

これまで長きにわたり茶会を教えてくださった入居者の原田立恵さんが逝去してから初めての茶会。まるで監督のいな

奮闘する職員に入居者さんから「原田さんが帰って来たかと思っ

〈茨城〉地域包括支援センター

済生会かみす

手で書く意義を実感 人気カフェで書道体験

7月7日に市内のカフェ、シロクマファクトリーコーヒーで「出張オレンジカフェかみす」を開催しました。認知症の方と家族、地域住民の交流の場として、また

（茨城・神栖済生会病院 済生記者 江口裕紀）

今回は皆さんが



カフェを数時間貸し切りに。また、書家の岩井颯雪さんが「脳を動かす手書きの効果」と題し講演。手は「第二の脳」といわれ、脳科学の研究でも手を書くことは脳によいとされていることや、「上手・下手ではなく書くことと自体を楽しみましょう」と語り、参加者は実際に墨と筆で文字を書く体験もしました。参加者からは「いろいろな学べ

てうれしかった」といった声が聞かれ、認知症カフェの意義を実感できました。



中学生のお仕事体験で職員側も感心!

〈福岡〉大牟田病院

6月19・20日の2日間、地域の中学2年生7人が当院で「お仕事体験」を行いました。コロナ禍以来、数年ぶりに受け入れを再開できました。

体験内容は、各種検査機器の見学や調剤体験、3D画像の作成、運動器具の使用体験、車椅子の操作、視覚障害や高齢者体験など、医療現場の幅広い業務に触れる内容を用意しました。



また生徒たちの強い希望で、予定外のオペ室の見学や心臓マッサージ体験なども急遽プログラムに追加。興味と関心を持ち、自分の意見をしっかりと言葉にする生徒の姿勢に対し、私たちも応えたいと感じた2日間でした。

医療の現場で働く人々の姿や責任の重さ、チームで協力する大切さなど、生徒たちは教室では学べない多くのことを感じ取ってくれたようです。

(済生記者 松岡 健)

〈福島〉川俣病院

緊急対応を想定した模範動画を作成

6月11日、当院のリスクマネジメント部会は、院内の医療安全勉強会に向け、「造影CT検査時の緊急対応・アナフィラキシーショック編」と題した模範動画を作成しました。

動画は、検査終了後に患者がアナフィラキシーショックを起こす設定で、現場での初期対応とチーム連携を再現。各職種が役割を演じることで実際の状況を想定しました。現実ではマニュアル通りには起こらないため、



模範例を通じてイメージトレーニングを行ない、急変時にも落ち着いて対応できるように努めてもらうことを目的としました。

また、撮影中には「CT室にストレッチャーが入らない」などの基本的な課題にも気づかされ、対応策を職員に周知する貴重な学びとなりました。

(放射線室 主任診療放射線技師 安斎洋之)

〈福井〉特養聖和園 心おどる音色に笑顔広がる

6月24日、当園多目的ホール

した。

日本の伝統的な音色に包まれたひとときは、皆さんの心にやさしく響いたようです。懐かし

さと楽しさが交差する、心豊かな時間となりました。

(済生記者 野尻 宗)

「済生会パトロール隊」に防犯功労表彰

熊本福祉センター

5月22日、熊本南警察署で行なわれた熊本南地区防犯協会総会で、当センターの中村敏就保安顧問が代表を務める「済生会パトロール隊」が、防犯功労団体表彰を受けました。

この表彰は、犯罪の予防や青少年の健全育成などの地域安全活動を長年推進し、安全で住みよい街づくりに貢献した団体を

表彰するもの。総会の冒頭で、防犯協会会長から表彰状が授与されました。

「済生会パトロール隊」は、2018年に警察OBの中村顧問が熊本病院に入職したことを機に病院職員有志で発足。現在は同顧問が転属した当センター就労継続支援事業所「済生会かがやき」の有志とともに、熊本病院を中心に青色パトロールカーで巡回や立番を行ない、通学時間帯の子どもたちを毎日見守り続けています。

(支援員 齊藤さなえ)



腰痛・膝痛の健康セミナー 2医師が治療と予防を解説

〈北海道〉小樽病院

6月22日、済生会小樽病院地域共生健康セミナーを、ウイングベイ小樽内の済生会ウエルネスリハデイサービス「ライヴリ

で利用者さん約70人が和楽器演奏会を楽しみました。大野市の生涯学習人材活用事業による指導者派遣として、岩田千津子さんをはじめ6人の皆さんが来園。三味線や篠笛の演奏にのせて、民謡などが披露されました。

大野音頭や炭坑節、御前踊り



など、親しみのある曲が次々に流れ、自然と手拍子が生まれました。中には、音に合わせて身体を揺らしたり、懐かしそうに口ずさむ人も。会場には温かな空気が流れ、演者とのやり取りを通じて笑顔が広がっていました。

」で開催。大山智充整形外科医長が「腰痛・足のしびれ」長く歩けていますか?」、鍋城尚伍医長が「膝痛治療の新常識」を講義しました。

大山医長は「腰痛の原因はたくさんあり、正確に診断し、疾患に合った治療を選択するのが重要」と説明。鍋城医長は変形性膝関節症について「軽症の間は薬、装具、リハビリが有効だが、症状が進み日常生活への支障が大きくなると手術が必要になる」と解説しました。

参加者は27人。関心の高いテーマということもあり、うち6人は飛び入り参加です。次回は8月31日、大腸がん検査をテーマに開催します。

(広報室長 松尾寛志)





地元温泉旅館を体験し 宿泊業への理解を深める

〔静岡〕川奈臨海学園

7月2日、伊東市の温泉旅館「青山やまと」から招待を受け、当園児童37人と職員11人が温泉旅館体験を行いました。昨年に続き2回目、地元の観光業や宿泊業について、子どもたちに理解を深めてもらう機会となりました。

子どもたちは温泉でのリラックスシーンを満喫した後、料理長から直接カンパチのさばき方を学習。さらに、料理長が目の前でさばいたお刺身を給仕する体験を通じて、食材から提供ま

会場全体が活気に満ちあふれていました。

当日は特養の利用者さん55人とその家族25人が参加。会場には笑顔があふれ、皆で一緒に楽しむことで、利用者さんと家族、そして職員の間の絆の深まりを感じることができました。

今回の夏祭りは、利用者の皆さんと家族が共に楽しむことができる場として大成功に終わりました。

〔済生記者 川端 誠・川瀬義博〕



救急車等運転習熟訓練

〔埼玉〕川口総合病院

6月2日、自動車教習所「飛鳥ドライビングカレッジ川口」の協力のもと、救急車等運転習熟訓練を実施しました。

当日は職員8人が参加。災害派遣医療チーム（DMAT）派遣時などに備えて、救急車での迅速かつ安全な移動ができるよう、川口警察署の皆さんから実践的な助言を受けながら訓練しました。

特に印象的だったのは「救急出動中に事故を起こしてしまつては、現場にたどり着けず、意味がありません」という言葉。参加者一同、この言葉の重みを受け止め、安全運転への意識を新たにしました。

初参加の人事・総務課の柴田一輝さんは、「救急車は車体が大きく、狭い道のカーブが難しかったが、安全第一の姿勢を再確認できた」と感想を話しました。

〔済生記者 原 衣里奈〕

大阪整肢学院

関西万博へ行ってきたよ

6月28日、一般社団法人大阪

での工程について理解を深め、社会的なマナーも学びました。

「温泉が気持ちよかった」「料理長の包丁さばきがすごかった」など、子どもたちからは多くの感想が寄せられました。「魚の部位を学ぶことができ、食に対する関心を高められた」という声もあり、充実した旅館体験となりました。

〔済生記者 鈴木一大〕

心筋梗塞の予防と治療法 初夏の出張講座の様子

〔神奈川〕横浜市南部病院

6月12日に横浜市永谷地区センターで出張講座を開催しました。「心筋梗塞って予防できる？治療法は？」と題した循環器内科が専門の猿渡力院長による本講演には、当初予定していた定員を超える地域住民26人が参加し、心筋梗塞への注目度の高さを実感しました。

講演では心筋梗塞を起こす可能性が高くなる喫煙・糖尿病・高脂血症・高血圧症・肥満の5大危険因子を説明するとともに、それらの予防法についても話がされました。

質疑応答の時間では、実際に

青年会議所による「JCFフェスタ2025」が開催されました。今年は5年ごとに開催される万博の年でもあり、思い切つて当施設の職員20人が子どもたち22人と一緒に、2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）に行くことになりました。心配された天候も子どもたちの願いが届いたのか、当日は晴天に恵まれました。バスでの移動中は「早く着かないかな」と外の景色を眺めながら、楽しい催しに一同盛り上がりつつありました。



ようやく現地に到着し、見学したパビリオンでは不思議そうに展示物を眺めたり、外でお昼



心筋梗塞の初期対応である救急車の要請を行なった経験のある参加者から、実体験を交えた質問があり、他の皆さんも心筋梗塞をより身近に感じる時間となりました。

〔済生記者 南川茉悠〕

福岡総合病院 就任お祝いの会に200人

6月20日、松浦弘名誉院長兼福岡医療福祉センター長と定永倫明院長の「就任お祝いの会」をホテルオークラ福岡で開催しました。

来賓や職員約200人を前に、定永院長が「長きにわたつて福岡の医療を支える当院で

ご飯を食べたりと貴重な体験もでき、笑顔が絶えない有意義な一日となりました。

〔事務係長 長谷川文崇〕

長崎福祉センター

小さな夏祭り 家族との絆を深めて

7月18日、当センター特養新館多目的室で「家族と楽しむ小



さな夏祭り」を開催しました。祭りの前日から、特養職員を中心に会場の飾り付けや、出し物のかき氷、輪投げ、ボウリングの準備に取り組みました。各所に彩り鮮やかな飾りが施され

働いていることを誇りに思っています」と挨拶。松浦名誉院長からは「院長としての8年間には多くの困難な局面を経験しましたが、皆さまのおかげで乗り越えられました。定永院長、副院長さらには各センター長たちを中心にますます発展し、信頼される病院になることを祈念しています」との力強いメッセージがありました。

4月から定永院長の新体制になり早3カ月。職員一人ひとりが当院で働くことに誇りを持ち、病院理念の実現に向けた決起の場として、思いを新たにしようと念すべき時間となりました。

〔済生記者 富永朋美〕



〈愛媛〉今治病院
ウォーキングで健康づくり

6月4日、イオンモール今治新都市でモールウォーキング&健康相談会を実施しました。48人が参加し、歩行指導を通じて健康づくりのサポートを行いました。

本イベントは今年2月に開始し、偶数月の第1水曜日に継続して行なっています。リピーターも増え、「最初



は恥ずかしくて迷ったけれど、始めると集中して気にならなくなり、説明も分かりやすい。参加してよかった」という声も。今回は特別企画として、アシックスの協力で、足型測定と靴選びアドバイスも実施。歩きやすい靴選びは健康な体づくりの第一歩です。参加者からは「専門家が詳しく教えてくれたためになった」などの感想も



寄せられ、充実感のあるイベントとなりました。

(済生記者 村上景助)

和歌山病院

20施設58人が参加し
嚥下のメカニズム知る

6月5日、第2回済生会和歌山病院医療介護連携の会を開催しました。今回のテーマは「嚥下」。当院の嚥下リハビリチームが中心となり、介護施設の職員や管理栄養士を対象として、病院のとりま食ときざみ食の試食会を行ないました。

その後は、当院栄養管理科の瀬戸咲穂管理栄養士が「嚥下調整食について」、リハビリテー



ション科の寺内久司言語聴覚士が「嚥下のメカニズムと嚥下食との関係について」の講演を実施しました。

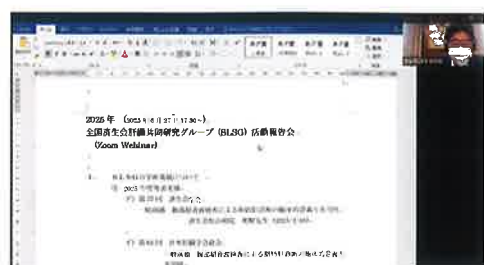
参加者からは「ミキサー食ととりま食を実際に試食し、食感などが参考になった」「嚥下のメカニズムを詳しく知れてよかった」と、前向きな意見が多く聞かれました。

院内・院外を含む20施設、総

全国済生会肝臓共同研究
グループ

肝臓学の進歩への
貢献を目指して

今年度の全国済生会肝臓共同研究グループ(SLSG)活動報告会を、6月27日にオンラインで開催しました。診療業務が



終わる時刻からの開催でしたが、全国から20人を超える出席がありました。はじめに、幹事の〈大阪〉吹

田病院・島俊英院長がSLSGとして行なわれた共同研究の今年度の発表実績と今後の発表予定を報告。続いて、現在進行中の研究の進捗状況が各担当者から報告されました。

SLSGの活動は済生会ホームページにも掲載されていますが、今後も全国に展開する病院グループの強みを生かし、研究を進めていく所存です。ご興味がある方はお気軽にご連絡ください(随時参加受付中)。

(岡山済生会総合病院 肝臓病センター主任医長 川上万里)

書道家の吉川壽一さんが
病院理念を書する

福井県済生会病院

6月12日、福井県出身の書道家・吉川壽一さんが来院し、当院の理念「患者さんの立場で考える」、そして「笑顔」を揮毫しました。

吉川さんは

講談社の人気

漫画「バガボ

ンド」の題字を手がけたことでも知られています。大胆さと繊細さを併せ持ち、強いエネルギーとメッセージ性を備えた作品は、世界中の人々を魅了し続けています。

今回の揮毫は、笠原善郎院長長との面会を縁に実現したもの。

〈神奈川〉横浜市東部病院
病診連携強化目指す
過去最多参加者

6月12日、当院多目的ホールで、地域の医療機関の関係者を招いた第42回病診医療の会が開催されました。鶴見区医師会・



神奈川区医師会との共催で、当院と連携する医師など、院外から40医療機関50人、院内から医師72人及其他スタッフ18人、合計140人と過去最多の参加者数となりました。

当日は3部構成で、第1部では菅野浩薬剤部長と山内俊之整形外科医長による講演、第2部「病診の窓」では坪井一平不整脈科部長による新たなアプローチの紹介、第3部では懇親会を実施。参加者同士の交流が深まり、地域医療のさらなる発展につながる有意義な時間となりました。

(地域医療連携室 主任 松丸綾香)

茨城県済生会

支部長表彰を6人が受賞

2023年度に創設された支部長表彰制度の第2回表彰式が水戸済生会総合病院内で執り行なわれました。

支部長表彰を受賞したのは宮田忠明臨床検査科科長補佐（水戸済生会総合病院）、大越信行放射線技術科科長（茨城県立こども病院）、大塚宏子看護師（神栖済生会病院）、福澤純子栄



養科科長（龍ヶ崎済生会病院）、大久葉子副看護部長（常陸大宮済生会病院）、松井一浩介護支援専門員（特養龍ヶ岡）の6人。それぞれの職場や地域における長年の功績が高く評価されました。

村田実支部長は祝辞で「受賞を機にさらに飛躍していただきたい」との言葉を送り、受賞者たちは今後も自分たちの職務にさらに献身的に取り組む決意を新たにしました。

（済生記者 高倉純子）

〈埼玉〉川口乳児院

里親さんと子どもたちを招いて茶話会

6月29日、当院講堂で里親さん



んと当院から里親委託された子どもたちを招いて、茶話会を行いました。里親支援専門相談員を中心に準備を進め、当日は7組の親子が参加。近況を話し合い、職員の出し物も行ないました。

調理室からは、手作りのゼリーやクッキーなどのおやつも用意。保育の合間には15人ほどの職員が会場にやってきて、子どもたちの成長を喜んでいました。会の最後には有志で演奏を行ない、皆で歌を歌ってお別れとなりました。

当日アコーディオンを演奏した保育士は、子どもたちが退所していくときに、いつも演奏をして見送っています。再会を喜



移転以来初！ 旧館屋根塗装を実施

当センター旧館の屋根工事を、1999年10月の西山台への新築移転以来初めて行ないました。

6月12日から7月7日まで



の約3週間をかけて、足場架設、高圧洗浄、下地処理、錆止め塗装、仕上げ塗装（2度塗り）、足場解体、検査の一連の作業を進行。



幅14メートルの作品が 新外来棟に設置されます

滋賀県病院

2027年2月完成予定の当院新外来棟に、幅14メートルの巨大アート作品が設置されます。手がけるのは滋賀県在住・画家歴59年のブライアン・ウィリアムズさん（75歳）。ウィリアムズさんにとっても、今回のスケールは初めての挑戦です。6月11日、進捗確認と激励を兼ねてアトリエを訪問しました。

作業期間中、特養なでしこ荘入居者さんやデイサービスの利用者さん、近隣住民、職員の皆さんにはご不便やご迷惑をおかけしました。作業員の皆さんには暑い日々の中一生懸命に作業を進めていただき、熱中症を心配していましたが、全工程が無事に完了しました。

塗装前の鮮やかな赤色から落ち着きのある薄茶色へと色を変え、移転時の建物の姿がよみがえりました。新鮮な感じがする一方で、懐かしさも感じられるでしょう。

（済生記者 川端 誠・川瀬義博）

〈山形〉なでしこ地域包括支援 センター

地域とともに進める 健康づくり

4月・5月に全3回の「健康づくり教室」を開催し、地区住民延べ59人が参加しました。本教室は、山形済生病院と当センターの共催で、健康に役立つミニ講座や体操を通じて、地域の健康増進を図るものです。

今回は、新たに活動を始めたボランティア「ちえつとサポーター」の皆さんの協力により、参加者にいられたのコーヒーを



作品には比叡山、沖ノ島、伊吹山など、滋賀県の風土を感じると美しい景色が描かれます。特徴的なのは、ゆるやかなカーブを持つ「曲面キャンバス」。視界全体に風景が広がるような臨場感を生み出す効果があります。現在はキャンバスの土台を作っている段階で、7月から着彩予定とのこと。

ウィリアムズさんは「この絵が患者さんの心に安らぎを届ける治療の一部として機能してくれたならうれしい」と語りました。

（済生記者 鵜飼健成）

（社会福祉士 種本佳奈恵）

topics



顔になり、一緒に歌を歌ったりしています。
彼女たちの今後の目標は、5年以内に介護福祉士の試験に合格することです。彼女たちなら合格間違いありません。
(東館介護課 介護主任 井手口 良)



7月3日、院内で災害対策訓練を実施。警固断層帯を震源とする震度7の地震が発生したと想定し、各部署から選出されたプレイヤーと、DMAT隊員を中心としたファシリテーターの総勢130人の職員が、トリアージ、災害対策本部・緊急診療指揮所の運営、各部署の連携など災害時の対応シミュレーションを行いました。
今回は近隣の専門学校で32人に患者役を担ってもらい、実災害に近い状況を再現したが

災害拠点病院として 有事に備えた訓練を実施

福岡総合病院

6月19日、地域の医療機関を中心とした関連機関の皆さんとの交流会を当院で開催しました。当院がサブアキュート、ポストアキュートの役割を果たすには、地域の在宅支援者の皆さんとの交流も重要です。居宅介護支援事業者や訪問看護ステーションなどにも声をかけ、過去最多の56施設105人が参加盛大な会となりました。
岩永壮平リハビリテーション科・整形外科部長による「上下肢痙縮に対するボツリヌス療法について」、中武俊二眼科部長による「当院における白内障手術について」の講演では、活発な質疑応答や意見交換が行なわ

顔を合わせて話せる関係が 連携の基礎

らの訓練となりました。
当院は「福岡県災害拠点病院」として、災害発生時には地域の医療救護活動の拠点となり、被災者や被災医療機関への支援を行ないます。日頃からBCP（事業継続計画）を策定して定期的に災害訓練を実施しています。
(経営企画課 新田 怜)

〈福岡〉飯塚嘉穂病院



令和7年度 済生会飯塚嘉穂病院地域医療連携の集い

れました。

講演後は会場を移し、6年ぶりに対面での懇親会を開催。笑顔のあふれるにぎやかな時間となりました。実際に「顔を合わせて話ができる関係」は連携の基礎と考えます。
(地域連携福祉事業課長 濱崎妃沙子)



盛り上げtaiメンバー(真ん中が「隊長」)

回復期を盛り上げたい！

〈滋賀〉守山市民病院

当院には回復期リハビリテーション病棟の看護師などスタッフ有志による「回復期盛り上げtai」というチームがあります。「回復期の患者さんを皆で支えるために、現場を盛り上げていきたい」との思いで活動しており、その取り組みは機能評価でも高い評価を得ています。
チームの活動の一つが、病院内外さまざまな分野から講師を招いた定期的な勉強会です。6月23日に実施した今年2回目の勉強会は「患者の移動・移乗」がテーマ。職員約40人が参加し、リハビリや介護で使用するリフト機器について理解を深め、意見交換も行なわれました。
平泉昌輝「隊長」（社会福祉事業室課長）は「チームでの学びを患者さんに還元して、患者さんを支援していきたい」と語り、今後も年間計画のもとで勉強会を企画しています。
(済生記者 中嶋元香)



高校生の夢を育む 看護の出前講座

〈岡山〉吉備病院

令和7年度「看護の出前講座」を岡山県立総社南高等学校で開催しました。3度目の今回は高校1〜3年生の計23人が参加し、特に1年生の参加が目立ちました。

講座ではナイチンゲールの紹介に加え、看護の役割をデータで示しながら、看護師が活躍する多様な現場や、「人の役に立ちたい」という思いの大切さを伝えました。
模擬体験ではSPO2モニターを使用し、呼吸を止めて酸素飽和度の変化と回復を体験。生徒

日本で頑張っています！ 〈兵庫〉特養ふじの里

私たちは真剣な眼差しで取り組み、進路に関する質問も多く寄せられました。看護職への理解が深まり、自分の将来を考えるきっかけとなる充実した時間となりました。今後もこのような体験を通じて、看護に関心を持つ生徒さんが増えることを願っています。
(総看護師長 森 真須美)

ふじの里では昨年から外国人介護士を雇用しています。2024年9月から東館に2人（インド出身）と今年3月から西館に2人（ミャンマー出身）、合計4人の外国人介護士が活躍しています。
はじめは日本語もたどたどしく、利用者さんとのコミュニケーションの取り方に四苦八苦しかし、今では他の介護士と比べても変わらないほどです。
お国柄なのか、利用者さんと笑顔で話すのは我々よりうまいかもしれません。利用者さんも笑顔でコミュニケーションをとる彼女たちが大好き。「あんなはいつも笑ってるなあ」と笑

はじめは日本語もたどたどしく、利用者さんとのコミュニケーションの取り方に四苦八苦しかし、今では他の介護士と比べても変わらないほどです。
お国柄なのか、利用者さんと笑顔で話すのは我々よりうまいかもしれません。利用者さんも笑顔でコミュニケーションをとる彼女たちが大好き。「あんなはいつも笑ってるなあ」と笑

神奈川県病院 なでしこ保健室がつなぐ 地域や所属を越えた交流

6月18日、埼玉県上尾市の「医療法人藤仁会」から4人が来院し、イオンスタイル東神奈川店を拠点に当院が実施する「なでしこ保健室」の活動を見学しました。



同法人では、個別の健康相談を地域で行ないたいと考えていたところ、当院の取り組みにたどり着き、今回の見学に至ったそうです。

当日は、保健室の設営から対応の流れを見学したほか、実際に来場者として体験する時間も設けました。また「なでしこ保健室」を立ち上げた背景や、地域イベントなどでの継続的な出店についても紹介しました。遠方からの訪問ではありましたが、

地域や法人を越えた交流が生まれ、私たちにとても喜びのあるひとときとなりました。
(済生記者 小山友輝)

〔新潟〕三条病院 看護の連携強化に向けて 県央圏域看護部長会

5月28日、隣接する特養長和園で「県央圏域看護部長会」が開催され、9病院から看護部長と施設見学のため在宅医療連携機関の担当者20人が参加しました。



この会は、現在は終了している県の事業をきっかけに県央圏域の9病院で年に3回看護部長会を開催し、情報交換を行なっています。

今回の担当病院である当院が、冒頭で自院の取り組みを発表。五十嵐綾副看護部長は「入退院支援の現状」として多職種連携について、泉育子副看護部長は昨年9月から開始した「院内デイクア」を紹介しました。参加者からは「入退院支援の仕組みを参考にしたい」と感想が寄せられました。

今後に向けて新たに部門別交流会を企画し、7月に第1回として透析施設による交流会が行なわれました。今後も圏域内での連携強化に努めていきます。
(看護部長 池 穂波)

〔茨城〕龍ヶ崎済生会病院 地域の声にこたえて 認知症の講演会

6月23日、龍ヶ崎市の「城ノ内いきいきサロン」で認知症に関する講演会が開催されました。当院の小林若菜認知症看護認定看護師と仁平幸子薬剤師が講師を務め、地域住民約20人が参加しました。

地域の居場所づくりとして運営されているこのサロンから、認知症について知りたいと



の要望が寄せられ、講演会が実現。アルツハイマー型認知症の病態や予防、新薬について解説し、参加者は熱心に聴き入りました。

質疑応答では、認知症が疑われる家族をどう病院に連れて行くか、新薬の副作用についてなど、現実的な質問が多く寄せられました。

今回の講演会をきっかけに他地区からも依頼があり、講演を行なう予定です。
(済生記者 堀越琴美)

〔愛媛〕今治病院 人気ナンバーワンは 骨密度検査

6月6日にユニクロ今治店で無料健康相談会を実施しました。快晴で気温もかなり高い中、過去最多の70人が参加。大変盛況なイベントになりました。

血管年齢・骨密度・体組成・貧血・血圧の五つの検査を実施しましたが、アンケートの結果、人気ナンバーワンは「骨密度検査」でした。デモ機ではありますが、今回初登場の「血管年齢」も大好評で第2位でした。

若い人の参加もみられ、結果に対して親子で話している様子も微笑ましかったです。また、ユニクロのスタッフから衣類バンクへの約100点の寄付もあり、心も体も温まる一日になりました。

(済生記者 村上景助)

〔静岡〕特養小鹿なでしこ苑 「防災かまどベンチ」 設置に向けて参加者求む!

2024年度に本誌にシリーズで投稿した「防災かまどベンチ」ですが、西豊田学区地域



支え合い体制づくり実行委員会より、今年度は「高齢者施設への設置を」ということで、当苑への設置が決定しました。

6月13日、第1回目の会議が当苑で開催され、西豊田実行委員会から7人、当苑から5人が会議に参加しました。



活動1回目の基礎工事は7月20日、2・3回目のレンガ積みと座面塗装は8月23・30日、座面設置をして完成するのは9月14日という日程が決まりました。

夏の暑い中の作業ですが、地域の方々とともに楽しみながら、防災について考え、地域とのつながりを確かなものにできればと思います。

興味のある方、一緒に参加してみたいという方は、ぜひ当苑までご連絡ください。
(地域ケア担当 望月亜紀)

拘禁刑とは？ 刑務支所見学を終えて

6月1日に「拘禁刑」が施行され、今までの懲役刑と禁固刑が一体となりました。

旧監獄法により明治40年に制定されて以来、115年ぶりの大改革です。懲らしめの意味をもつ懲役刑に

対し、今回の改定は、「改善更生を図る」ことを主眼に、その人の特性に応じて「刑務作業」と立ち直りを支援する「教育」を組み合わせた制度への変更です。

7月4日、当院から全国済生会刑余者等支援推進協議会所属の筆者ら3人で拘禁刑のモデル事業所でもある札幌刑務支所を訪問、刑務官の方々とも意見交



換を行ないました。拘禁刑について学び、今後の更生支援を考える上でも良い機会となりました。

当協議会は、刑余者支援に関心のある済生会職員を随時募集しているので、関心のある人はぜひ事務局までお問合せください。

（副院長兼事務部長 森川 篤）

テレビの密着取材で 現場のリアルな姿を撮影

6月13・15日の3日間にわたり、千里救命救急センターの竹内隆将医師が、テレビ朝日の人



気番組「朝メシまで。」の取材を受けました。今回の取材では、ドクターカーに搭乗する医師に密着し、夜勤業務の就業後の「1日の締め」に食べる朝ごはんを紹介するという内容です。撮影では、ドクターカーで現場へ向かう様子や車内設備の紹介に加え、竹内医師が救急科の

医師を志した動機、日々の業務内容、その中で感じる苦労についてのインタビューが行なわれました。

撮影当日は、撮影スタッフの皆さんと和やかな雰囲気の中で進行し、現場のリアルな姿が収録されました。

子ども食堂への寄付

夜勤明けに食べる朝食——医師にとって一日の区切りとなる大切な時間。そんなひとときにスポーツを当てた、見どころの多い内容となりました。

（済生記者 二階堂潤江）

（佐賀）唐津病院

6月17日、地域の子ども食堂の運営をはじめ、生活困窮



者の支援や地域の交流促進などを行なっているNPO法人KARATSUに、寄付金をお渡ししました。この寄付金は5月8日～6月15日に職員を対

象に募ったものです。

唐津市では現在20カ所程度の子ども食堂が活発に運営されています。当院は活動費の寄付や物品の寄贈をしたり、イベントのお手伝いをするなどで支援しています。2月と6月には「からつたらふく子ども食堂」が市内で開催され、済生会唐津医療福祉センターの済生会地域包括ケア連携士が、子ども食堂を運営する団体や協賛する企業の皆さんのお手伝いをしました。

地域の子もたちが安心して学び続けることができるよう、今後も地域のことも支援活動のお手伝いを続けたいと思います。

（済生記者 相島蘭香）

〈山口〉下関総合病院

前立腺がん密封小線源療法 800件超の実績

当院では前立腺がん密封小線源療法を平成23年11月に県内最初の施設として導入し、2025年3月までに801症例の治療を行ないました。

この治療は

笑顔がこぼれる ふわふわのパンケーキ

天拝

（福岡）デイサービスセンター

（診療放射線技師 神田栄治）

7月15日、利用者さん48人に職員がホットプレートを使って「できたて」のおやつを提供するイベントを行ないました。

この日のメニューは、ふわふわのパンケーキ。あんこ＆バナナ、マッシュマロ＆チョコ＆バナナ、アイスクリーム＆ブルーベリーの3種類のトッピングを用意しました。

どのプレートも好評で「全部食べてみたい！」という声も。利用者さん同士で「どれにした？」「おいしかったね」と



ナ、アイスクリーム＆ブルーベリーの3種類のトッピングを用意しました。

のプレートも好評で「全部食べてみたい！」という声も。利用者さん同士で「どれにした？」「おいしかったね」と



〈東京〉 中央病院

① 全員で勝ち取った敢闘賞

6月8日、大井ふ頭中央海浜公園で第45回済生会関東ブロック親善ソフトボール大会が開催されました。
初戦の〈神奈川〉横浜市東部病院には惜しくも競り負け、敢闘賞を懸けて〈神奈川〉横浜南部病院、〈茨城〉龍ヶ崎済生会病院と対決。それぞれ10対1、15対0で見事敢闘賞を手にしました。

岡田佳晃監督は「初戦に敗れ、トーナメントは敗退しましたが、



敢闘賞までの2試合は全選手を起用し、全員で勝ち取った賞だと思えます。また、新人職員も活躍しチーム一丸となったことで多職種間での親交がより深まりました」とコメント。今大会の開催は当院が担当し。選手・運営一丸となって取り組み、済中へのチーム力を改めて実感する大会となりました。
(広報室 鈴木香純)

〈茨城〉 神栖済生会病院

① 久しぶりの勝利に大興奮！

6月8日に開催された関東ブロック親善ソフトボール大会に、当院からは金沢義一院長率いる20人の精鋭たちが出場しました。



生澤院長

前橋病院との決勝戦。初回4点先制されるも、裏の攻撃では先



今年は院長自ら出場。選手の勧誘にも一層力が入り、多くの職員や家族が会場に駆けつけました。

1勝1敗で迎えた3試合目は接戦の末引き分けとなり、惜しくも引き分けで敗れましたが、選手たちは全力を出し切りました。

十数年キャプテンを務める



金沢義一院長



佐々木健臨床工学科係長は「私が入って初めての勝利を挙げることができ感無量」と笑顔。勝因は最近入職した野球やソフトボール経験者の参加と、それに刺激を受けたメンバー全員の団結力によるものでした。
早朝からの移動と試合の疲れも吹き飛ばす久しぶりの勝利に、「次回はぜひ勝ち越しを！」と帰りのバスでは大いに盛り上がりました。

(済生記者 江口裕紀)

〈茨城〉 水戸済生会総合病院

① 若手とベテランの融合で関東大会優勝！

6月8日、素晴らしい選手宣誓で開会した、第45回済生会関東ブロック親善ソフトボール大会。関東大会は2年ぶりの開催です。

当院チームは、年々選手の平均年齢が上がる不安を抱えてきましたが、昨年と今年は若い仲間が増え、ベテランが経験と落ち着きを、若手がチャレンジ精神と勢いで刺激を与えるという、ベテランと若手が融合した素晴らしいチームになりました。

準決勝を勝ち上がり、〈群馬〉



〈熊本〉 みすみ病院

① 惜しくも優勝ならずも松村選手が3本塁打！

6月8日、第47回済生会九州ブロック親善ソフトボール大会が佐賀県唐津市で開催されました。当院はAパート2位という結果がここ数年続いており、今年こそは優勝を勝ち取るため選手一同練習を重ねてきました。

第1試合の相手は〈佐賀〉唐津病院、8対1で勝利することができました。第2試合は優勝続きの熊本病院との因縁の対決。先制点を挙げ幸先のよいスタートを切りましたが、最後に逆転され2対3で惜敗。第3試合は対〈福岡〉大牟田病院。ホームランが決め手となり7対0で勝

利しました。結果、2勝1敗で今年も2位となりました。
目標は来年に持ち越しとなりましたが、当院の松村康平理学療法士がホームラン3本でホームラン賞を獲得するなど、大いに活躍してくれました。

(済生記者 船橋麻紀)



香川県済生会病院

① 団結力と笑顔あふれる
ソフトボール大会

6月29日、山口県下関市の乃木浜総合運動公園で中・四国ブロック親善ソフトボール大会が開催され、当院チームも参加し



松本看護部長

ました。

今年は梅雨明けが早く、当日も厳しい暑さとなる中、1試合目の〈山口〉下関総合病院戦は両者譲らず同点のまま終了。くじ引きで当院の勝利。2試合目、3試合目は惜しくも敗れましたが、最後まで白熱したプレーを披露しました。

普段は穏やかな松本久美恵看護部長が、この日は鋭いまなざしでナイスピッチングを決めるなど、職員の意外な一面が見られました。若林久男院長もユニホーム姿で応援し、一体感ある温かい時間となりました。これから仲間とともに、笑顔あふれる活動を続けていきます。

(済生記者 長尾美甫)

〈奈良〉中和病院

② 近畿ブロックで優勝
全国二連覇へ好発進!

6月8日、愛知県半田市の半田びよろグレスポーツパークで、第44回済生会近畿ブロック親善ソフトボール大会が開催されま



した。全8チームが参加し、中島祥介病院長が見守る中、奈良県代表の当院チームが見事なパフォーマンスを披露。

初戦で大阪府代表と対戦し、7対0で快勝。続く2回戦では京都府代表を相手に6対3で勝利と順調に勝ち進みました。決勝戦では、強豪和歌山県代表を相手に、33対4で破り、見事優勝を飾りました。選手たちの練習の成果が存分に発揮された、素晴らしい結果となりました。

これにより11月9日に福井県で開催される全国大会出場が決定。近畿ブロック大会での勢いをそのままに、全国大会二連覇を目指して、選手たちはこれから練習に励んでまいります!

(済生記者 米井 悠)

③ 試合展開を忘れるほど
プレーに夢中!

〈山口〉豊浦病院

6月29日、下関市乃木浜総合公園にて行なわれた第46回済生会中・四国ブロック親善ソフトボール大会に多職種23人出場しました。

今回は中・四国の済生会病院11施設が参加。当院はBゾーンの試合に挑みました。

初戦は〈広島〉呉病院に9対7で見事勝利。2試合目は〈山口〉湯田温泉病院と対戦し、8対17で大敗しました。3試合目の香川県病院との対戦は最後の体力を振り絞って戦い抜き11対4で勝利。プレーを楽しむことに夢中で「何対何? どっちが勝つ?」と、試合展開を把握してない選手も多くみられました(笑)。

当日は熱中症警戒アラートが発表される中、チーム一丸となつて頑張りました。職員の応援団も多く駆けつけ、職種を超えて「チーム」とよさの連帯感が強まった一日となりました。

(済生記者 西田千鶴)

④ 雨雲を吹き飛ばす
熱戦を展開!

〈佐賀〉唐津病院

6月8日、第47回済生会九州ブロック親善ソフトボール大会を、当番病院として唐津市で開催しました。

当院が所属するAパートは、全国大会出場をかけた舞台です。〈福岡〉大牟田病院・当院・熊本病院・〈熊本〉みすみ病院の4チームが熱戦を繰り広げ、熊本病院が見事20連覇を達成。当院は第3位でAパート残留を果たしました。

Bパートは、福岡総合病院・〈福岡〉二日市病院・〈福岡〉飯塚嘉穂病院・長崎病院・〈大分〉日田病院・〈宮崎〉日向病院・鹿児島病院・〈鹿児島〉川内病院の8チームが白熱した試合を展開。決勝戦では二日市病院が勝利を収め、Aパート昇格を決めました。

大会当日は朝から小

雨がぱらついていましたが、選手の方々の気迫が雨雲を吹き飛ばしたようで、閉会式まで無事に終えることができました。

(済生記者 相島蘭香)



新人看護師の「成長する姿」をシェア！

〔茨城〕 神栖済生会病院

今年度より当院看護部の新人研修の様子を公式インスタグラムに投稿しています。

入職後は患者さんと接することと学ぶ機会を得ている新人看護師たち12人ですが、学生時代はコロナ禍の影響もあり、実習が十分に行なえなかったと感じている人もいます。
そんな新人たちが現場



KAMISU_SAISEIKAI_HP

で学び、成長する姿を、研修の様子を通じて皆さんとシェアしたいと考えています。

初回の投稿を4月に行ない、たくさんの「いいね」をいただきました。投稿を見てくれた職員も多く、院内のコミュニケーションツールとしても機能しています。

インスタグラムはこれまでイベント告知などに利用していましたが、今後はこのような研修や日常の様子も投稿し、より親しみやすい情報発信を目指します。

ぜひ当院アカウントのフォローをお願いします！

（済生記者 江口裕紀）

京都済生会病院

財務省、厚生労働省と懇談の場で意見交換

6月24日に財務省主計局から2人、厚生労働省医政局から3人の来訪を受け、当院でしこホールにて懇談会を開催し、京都府済生会・吉田憲正支部長、当院・伊藤義人院長をはじめ職

員12人が出席しました。

冒頭、財務省・森田茂伸社会保険企画室長から「病院経営の実情をお聞きし、今後の政策に生かしていきたい」、厚生労働省・桑原寛医療法人支援室からは「現場の皆さんが直面している課題をうかがいたい」との挨拶がありました。事務部長の筆者より当院の概要や経営改善経営指標推移を報告し、当院が抱える課題やその対応策について活発な意見交換が行なわれました。

今回の懇談が今後の政策に生

かされることを願っています。
（事務部長 宮部剛実）



〈新潟〉なでしこ青空保育園

利用者さんを元気づける子どもたちのはつらつ遊戯

当保育園の3歳児15人が6月12日、特養長和園を訪問し遊戯



訪問当日、大勢の利用者さんを前に緊張していた子どもたちですが、遊戯の曲が流れると元気に踊り始めました。一生懸命踊る姿に「かわいいね」「上手だね」と声をかけてもらったり、手拍子でリズムを取ったり、中には涙を流して喜ぶ利

用者さんもいます。
新人職員は初めてのAED訓練で不安気味でしたが、消防士2人からの指導を受け、職員10人が汗を流しながら訓練に取り組みました。

例年、AED使用実績は年1回程度ですが、令和6年度は2回を数えました。浦崎弘之施設長からは「これまでにAEDが救急現場で何度も活用され、利用者の方々の生命を守って来ました。これを維持するために職員誰もが使用できる体制づくりが必要です。しっかりと使用方法を学んで救命救急に取り組んでください」とのコメントがありました。



用者さんも。
保育園へ帰る車内では、「おじいちゃんとタッチしたよ」「おばあちゃん、なんで泣いていたんだろう？」と一人ひとりが心に感じたことを保育士や友だちと会話していました。
自分たちの元気な姿が誰かを笑顔にさせ、元気づけるということを知り、よい経験となりました。
（保育士 諏訪瑞穂）

〈栃木〉宇都宮病院

警察官に向けて性暴力被害者支援を講義

6月24日、栃木県警察学校で警察署勤務の警察官20人に、当院のときぎ性暴力被害者サポートセンター（とちエール）専任相談員である筆者が講義を行ないました。

同校では性犯罪事件の捜査能力向上を目的とした専科教養「性犯罪捜査専科」を実施。今回もその一環で、とちエールの事業紹介をはじめ、性暴力被害者支援の実際や警察との連携について事例を交えて講義しました。

受講者からは「実際の支援事例や被害者心理などを学ぶこと

ができた。今後ともとちエールと連携し、被害者に寄り添った対応をしていきたい」との感想が聞けました。
とちエールは性暴力被害者のワンストップ支援センターとして、今後も警察をはじめ関係機関と連携・協力し、総合的な支援をコーディネートしていきます。
（地域連携課 高木 茜）

〈和歌山〉特養潮光園

いついかなるときも慌てずにAED対処

6月18日、当園では新人職員研修の一環として、「AEDによる救命救急訓練」を実施。いついかなるときも慌てずに取り組めるよう、湯浅・広川消防組合の指導のもと、毎年開催して



〈大阪〉中津特養喜久寿苑
散髪ボランティアさんへ
15年間の感謝を込めて

当苑における杉本安雄さんの散髪ボランティア活動は2010年4月から始まり、今年で15年を迎えました。月に1〜2回、ご自身が営む理髪店の定休日である月曜日に来苑。社会貢献の思いから、長



年にわたって活動を続けてくれています。コロナ禍で外部からの来苑者を極力控えていた時期も、感染対策を十分にとった上で活動を継続してきました。

6月26日、入居者さん8人の散髪終了後、皆すっきりとした表情で笑顔に。寝たきりで座位が取れない人や、認知症が重度の人など、難しい場面でも工夫をしてカットしてくれました。

施設内の生活においても、「整容」は日常の一部としても大切なこと。入居者さんのために、15年にわたり活動いただいていることに、心から感謝します。

（生活相談員 浅田桂造）

〈東京〉中央病院

街の一大イベントで
しばみスイーツ完売！

6月7日、当院が事務局を務める「みんなとプロジェクト」が、港区芝支所主催の「ふれ愛まつりだ、芝地区！」に参加しました。例年たくさんの区民の皆さんが集まる街の一大イベントで、今年で3回目の参加になります。

今回はいつもの「しばみつマ



ドレーヌ」に加え、戸板女子短期大学の学生さんがレシビ開発に加わり昨年度末に完成した「レモハチマフィン」を販売しました。それぞれ100個ずつ準備しましたが、予定通り完売し、盛況に終わることができました。

今回は芝支所が運営している養蜂活動グループ「芝BeeBee's」と同じテントで販売とPRができたので、さらに認知度が上がったように思います。

初夏の暑い一日でしたが、たくさんの方で大いに盛り上

〈北海道〉小樽病院

モンゴル出身看護補助者
3人が即戦力として活躍

当院では4月、初めて海外出身者3人を看護補助者として迎えました。介護福祉士資格を持つモンゴル出身のチミドスレンナイマンガル（ガル）さん、エンフバルスエンフオウン（オウン）さん、アルタンゲレルゲレルトオド（オド）さんです。受け入れにあたり、外国人専用マニュアルの作成など、サポ

ート体制を整備。受け入れる側も研修を実施し、モンゴルへの理解を深めました。

急性期病棟勤務のガルさんは日本語が堪能で、将来は祖国に介護施設を設立することが夢。オウンさんは患者さんへの丁寧な接し方などが評価され、チームの一員として厚い信頼を得ています。地域包括ケア病棟のオドさんは運動が得意で、地元の



マラソン大会にも参加。皆現場で即戦力として活躍しています。

（済生記者 定 淳志）

済生会看護部リクルートサイトオープン！



あなたも「なでしこナース」になりませんか？



<https://www.saiseikai.or.jp/nurse/>

topics

〈福井〉老健ケアホーム・さいせい

施設内に新鮮な風！ 職員制服リニューアル

7月1日、全職員を対象に6年ぶりとなる制服リニューアルを行いました。デザインは職員の投票により決定し、介護職員と看護師には動きやすさを重視したスクラブとポロシャツをそれぞれに支給。また、職種ごとに色分けも行ない、介護は青、医療はピンク、事務はライム色となりました。

利用者さんやそのご家族からも「かっこいい」「かわいい」



と大変好評で、新たな制服を身に纏った職員たちは、より一層やる気満々！施設全体に新鮮な風が吹き込んでいます。今後も利用者の皆さんに快適に過ごしていただくため、職員一同、日々の業務に努めていきます。新制服を着た職員たちの活躍にご期待ください。

（事務係長 針原大輔）

福井県済生会病院

ワークアウト・プロジェクト キックオフ！

当院では、SQM (Saiseikai Quality Management) 活動



の一環として2004年からプロジェクト活動を継続しています。病院が抱える課題に対して毎年テーマを設定し、半年間にわたり多職種のメンバーが協力して解決策を検討します。

今年度のテーマは「生成AIの活用による業務効率化と生産性向上」「多様な働き方の実現」です。

6月27日のキックオフ当日は、天谷奨SQMセンター長からプロジェクトの目的や背景について説明があり、参加者同士で方向性を共有。笠原善郎病院長からは「各チームが職種間の垣根を越えて協力し、目的を見失わずに最後までやり遂げてください」とエールが送られました。最終発表は12月に開催される「済生会DAY」で実施されます。

（済生記者 橋本来林）

〈三重〉介護老人福祉施設 明和苑

和菓子の水無月で涼を

明和苑では毎月1回、「おやつバイキング」を開催しています。

提供されるおやつは、給食委



託業者と管理栄養士による手作りで、予備も含めて55食を用意。毎月変更されるメニューは季節感を大切にしている、利用者さんが食べやすいように柔らかいものを用意しています。

6月は季節の和菓子「水無

〈福島〉川俣病院

寄贈された花とともに 地域に根差した医療機関へ

月、オレンジゼリー、えびせんべいの3種を用意。水無月は白いうろろ生地に小豆をのせた三角形の和菓子で、小豆には厄除け、三角形には暑氣払いの意味が込められています。

利用者さんは「二つもよばれたわ（食べたわ）」と言って、涼を呼ぶ味わいに笑顔を浮かべていました。

（生活相談員 中西 梓）

5月26日、川俣町内で花の販売や冠婚葬祭などを中心に、創業60年以上にわたり営業を続ける株式会社保原屋生花店の八巻大社長より花の苗1000株を寄贈いただきました。

同生花店は東日本大震災後から地域住民の心のケアため周辺



保原屋生花店代表取締役・八巻大さん（写真右）と渡辺浩志院長

施設に花を届ける取り組みを続けており、今回はその一環として、当院にサルビアとマリーゴールドの苗を届けていただきました。苗は職員が歩道に面した花壇に植えて、赤とオレンジの色鮮やかな花が町の風景を彩っています。

今回の寄贈を受け、診察に来る患者さんに笑顔を届けるとともに、当院の病院理念「私たちは、いたわりの医療で地域を支えます」にある地域に根差した医療機関として、職員一同気持ちを新たにしました。

（済生記者 長澤みゆき）

〈兵庫〉特養ふじの里 院内ビューイングで 非日常のサッカー観戦！

5月25日、兵庫県病院が企画した「Jリーグ・ヴィッセル神戸の院内ビューイングが、当施設の多目的ホールで開催されました。ふじの里からは入居者さん14人・職員3人と、サービス付き高齢者向け住宅ウエストサイド藤原台の入居者さん2人が参加。ヴィッセル神戸からマスコットキャラクターのモーヴィと、応援ユニット「セレイア」



と笑顔で話していました。ハーフタイムや試合後にモーヴィたちと記念撮影もし、非日常的な時間を大勢で体感。入居者さんや職員同士でも日頃見られない表情を見ることができ、思い出の一日となりました。

（管理部長 田中敬二）



〈北海道〉みどりの里 大切な施設を皆できれいに

「みどりの里環境美化活動」として、7月1日、施設敷地内の清掃作業を利用者の皆さんと一緒にに行ないました。

今回の活動の目的は、私たちの大切な施設をきれいに保つこと。また、普段とは異なる活動を通じて気分転換を図る機会にもなればと考えました。

当日は職員と利用者さん合わせて約40人が参加し、皆で協力して約30分間清掃作業を実施。45リットルのゴミ袋5袋分のゴミを回収することができました。

参加者の皆さんからは「たくさんゴミを拾えた。天気もよく気分転換になった」とのうれしい声も。今後も年1回、このような清掃作業を行なう予定です。

（済生記者 上野孝嗣）

〈三重〉明和病院 緊張しながら採血に挑戦

5月29日、新人看護職員研修「採血注射」を実施しました。今回は新人看護職員研修「採血・注射②」として「筋肉注射、皮下注射、インスリン皮下注射」



の演習を行ないました。新人看護師8人が参加し、採血の復習に臨床検査技師2人も参加しました。

今回は、研修生が互いに患者役となり、互いの腕で実際に採血をしました。研修生たちは緊張で手が震えてしまう場面もありましたが、採血できそうな血管を真剣に探し、文字通り「手取り足取り」の優しい先輩の指導により一発で成功。安堵の笑顔を見せていました。

参加した新人看護師は「コツや注意点を学ぶことができました」とコメント。現場での実施をシミュレーションできたようです。

（副看護部長 椿 真弓）



ら開きなじみのあるJポップソング、北網島特別支援学校の校歌、そして急遽アカペラで「アメイジング・グレイス」も歌ってくれました。アンコールにはオリジナルソングが披露され、集まった皆さんは手拍子をたたいたり、体を音楽に合わせて揺らしたりと楽しいひと時を過ごしました。（済生記者 荒木愛美）

〈和歌山〉特養潮光園 紙おむつのプロを目指して

当園では大王製紙の協力のもと、紙おむつの適切な使い方や排泄に関する専門知識を習得し、排泄ケアの質を向上させるための資格取得に着手しました。

正式には「アテントマイスター・プロ」と名付けられた非公式な資格ですが、介護職員の中から「我こそは」という人が果敢にチャレンジしました。「おむつに関する知識を習得すること、これまでのおむつの選び方などを改革してほしい」と浦崎弘之施設長は話します。

今回チャレンジした介護職の岩倉裕弥さん、棟保辰平さん、藤田真央さんは、約6時間にわたる講義、実地研修と認定試験

〈広島〉特養たかね荘こやうら 職員の意見を取り入れた ユニホームの更新

4月の管理栄養士に続いて、6月に介護職員のユニホームを更新しました。広島県済生会各施設では職員のユニホームは、コストを抑えるため職種ごとに統一したものを使用しています。介護職員のユニホームにおい



ては、各施設選出の職員で構成した制服検討委員会で見解を聞き、提案のあったものを委員が試着して数種類に絞り込み。その後、介護職員全員の投票で、最多得票数の商品に決定しました。

管理栄養士は白衣からピンクに、介護職員は青からパーガンディーに変更。各職種ごとに検討したため色が同系色になったという反省点もありますが、職員からは「着心地がよい」「伸縮性があるため業務がしやすい」「つた」などの声が聞かれます。

（済生記者 佐藤 聡）

〈神奈川〉重症心身障害児（者） 施設サルビア

歌のプレゼントで 利用者さんを元気に

5月29日、重症心身障害児（者）施設サルビアのプレイルームで、エンターテインメントボーカルグループ「Starlights」によるコンサートが開催されました。これは北網島特別支援学校サルビア分教室に向けたイベントで、当日は利用者さん34人が参加しました。コンサートでは、ゴスペルか



全国大会につながる「競技会」に出場したNさんは予選リーグで2位通過し、ベスト4入り。また、「記録会」ではHさんは全勝で優勝を飾り、女性陣の2人も素晴らしい活躍を見せました。一方、応援メンバーからは「次回は出場してみたい」という声も上がりました。

同会では、「病気にとらわれず自分らしく生きる」ことを目指し、卓球を通じて心・体・協調性を鍛え、社会的つながりを深める「卓球プログラム」を毎週木曜日に開催しています。一緒に卓球を楽しむ仲間をお待ちしています。

（支援部デイケア科

看護師 森 美千代）

〈埼玉〉鴻巣病院 デイケアメンバー卓球部が 大会で躍動！

5月18日、埼玉県障害者スポーツ協会主催の「彩の国ふれあいピック春季大会」に、デイケアあすなろ会の利用者さんが卓球部門に出場しました。

同会の選手4人、応援2人に加え、当院スタッフ2人が参加



topics



めて深い感謝の意を表しました。我々の大切なパートナーとしての彼らの働きがあったからこそ、常に清潔な環境を提供し、利用者さんの快適な生活を支えるこ

とができました。スタッフからは「長い間ありがと。子どもを旅立たせる気分です」との感慨深い声が上がりました。それと同時に次期洗濯機と乾燥機に対する期待感も「使いやすいといいな」と高まっています。

新たな洗濯機と乾燥機も到着し、初日から稼働。投資費用を考慮し、長持ちさせるための管理にも力を入れていきます。

（済生記者 高橋 睦）



（東京）向島病院 JKKトミンハイム墨田で5回目の出張健康教室
6月24日、JKKトミンハイム墨田で恒例の出張健康教室を開催しました。2023年に開始して以来5回目。今回も認知症看護認定看護師、理学療法士、管理栄養士、そして薬剤師と多職種が協働して講演を企画しました。あいにく台風2号接近の影響で時折ばらつく雨と強風により、参加者は4人と少なめでしたが、当院選りすぐりの専門家による興味深い話が繰り広げられ、会

場からも質問が飛ぶなど好評でした。おなじみのフレイル予防体操の実演もあり、JKK職員の方も参加し皆で楽しく盛り上がりました。（済生記者 加藤建志）
福井県済生会病院 病院の中で楽しみが広がる無印良品ポップアップ開店
6月24日、当院1階の待合スペースに、株式会社良品計画と連携した1カ月限定の「無印良品POP-UP STORE」がオープンしました。この取り組みは、無印良品を展開する良品計画と済生会が2023年10月に締結した地域包括連携協定に基づくもので、昨年の好評を受け、2年連続での開催となりました。来院者はもちろん、外出が難しい入院患者さんにも楽しんでもらえるよう、「梅雨」や「防災」など、週替わりのテーマに沿った商品を展開。さらに、特別企画としてRENUITI衣類回収活動やマイバックづくりのワークショップなども行なわれました。利用者さんからは「支払いを待っている間に気軽に楽しめ



た」といった声も寄せられました。（済生記者 橋本来林）



（栃木）宇都宮病院看護専門学校

看護師への第一歩 誓い新たに

5月23日、本校2年生の看護観発表会が病院関係者、保護者、在校生が見守るなか、行なわれました。

基礎看護学実習の経験をもとに各自が看護を行なう上で大切にしていきたいことを発表しました。発表を行なった学生からは「共に学ぶクラスメートの発表を聞き、より一層、皆で看護

山形済生病院

足は第二の心臓

6月21日、山形テルサで「100歳になっても2本の足で歩ける足づくり」と題した市民公開講座が行なわれました。

山形市健康推進課や神戸大学から講師が登壇する中、当院の心臓血管外科診療部長の外田洋孝医師が「本当に怖い足の病気を下枝切断切迫足病変」を識る「100歳まで足といのちを守るために」と題して講演を行ないました。

外田医師は下枝切断はなぜ怖



山

いのか、下枝切断切迫足病変の原因について、実際の症例について、下枝切断を回避するための戦略などについて詳しく解説

師になりたいという目標が明確になりました」「ベッドサイドに行つて、患者さんに寄り添うことがいかに大切かを改めて実感しました」という感想が聞かれました。2年生の胸には在校生から送られたコサージュが飾られました。キャンドルサービスでは厳かな灯りの中、クラス全員で考えた誓いの言葉を述べ、看護師への道を歩む気持ちを新たにしました。（済生記者 石川由子）



ら行なわれました。20有余年の長きにわたり、一日に1000枚以上のもの洗濯を担ってくれた働きぶりに、改

しました。最後には講師の先生方による座談会が行なわれ、足の健康について知ることの重要性についての話があり、意識の向上につながる講演会となりました。（済生記者 柏倉汐里）

（山形）特養愛日荘

20年以上も活躍した洗濯機・乾燥機の更新

長年にわたる労働の功労者、洗濯機と乾燥機の搬出・搬送が阿部久施設長の下、6月11日か

topics

歴史と伝統のお祭り 癒やしを届ける

〈三重〉明和病院

6月7日に明和町で開催された第42回斎王まつりにブースを出展しました。

明和町は斎王宮殿域の実態解明を行なっており、国史跡斎宮跡に指定されています。歴史と伝統が息づくまちで、斎王群行などを行なうこのまつりは毎年の恒例行事です。今年は主催者発表で3万3000人が来場し、そのうち88人が当院ブースに足を運びました。



ブースでは訪問看護ステーションの看護師4人によるハンドマッサージ、居宅介護支援センター介護支援専門員2人による福祉介護相談コーナーを実施。ハンドマッサージには「癒やしを求めにきました」という方も。リラックスして普段の疲れを取っていただくようでした。また、相談コーナーでは日常的な健康の疑



問などを相談していました。
(介護保険部門課長 姫子松俊弘)

認知症マフ50個を超える メディア露出で協力者続出

和歌山病院

昨年10月より当院の看護部が中心となり、「認知症マフ」作りの取り組みを始めた。院内で認知症マフ作成のチラシを作成し、病院のホームページにも取り組みを掲載。この取り組みが地元紙に掲載されると、市内の手芸用品店などから毛糸の寄付を受け、職員や職員



家族で製作していました。さらに、製作協力の申し出も多数あり、現在ではすでに50個を超える認知症マフの提供があります。「当初は50個作ることが目標でしたが、このような反響に驚いています。マフが認知症の理解につながればうれしいです」と櫻井恵理副看護部長。

寄付されたマフは早速入院患者さんが使用し、病棟からも皮膚トラブルの予防にもなるし、見た目もよく有効活用できている」など前向きな意見が聞かれました。

(済生記者 松元靖寿)

地域の開業医らと 連携深める症例検討会

6月26日、当院研修室で「第10回宇都宮消化器症例検討会」を開催しました。当日は、院外



の医療機関の医師13人を含め、約30人が参加しました。本検討会は、平成24年11月から当院の消化器内科および消化器外科で共催。消化器疾患、特に悪性腫瘍の治療に関して、地域の開業医と症例を共有・検討することを目的としています。今回は、冒頭で副院長兼消化器内科主任診療科長の田原利行

医師と、消化器外科主任診療科長の吉川貴久医師より、各科のスタッフ紹介が行なわれました。その後、吉川医師による「癌におけるロボット支援手術」を皮切りに、医師4人による症例発表が行なわれました。最後に、内視鏡診療科長の寺内寿彰医師による閉会の挨拶

待ちに待った消防署見学

長野保育園

6月24日、当園の年長児16人が長野市消防局中央消防署へ見学に行きました。

消防署までは電車やバスを乗り継いで行くので、子どもたちはワクワク・ドキドキ状態です。自分たちで一人ひとり切符を買って電車に乗り、到着駅に着くと運転士さんが汽笛を鳴らしてくれました。子どもたちは驚きながらも「すごい!」また乗るね、バイバイ!と大喜び。バスも公共交通ルールを守りながら乗車し、消防署まで楽しく行きました。

消防署に着くと、消防士さんがさまざまな消防車を説明しながら見せてくれたり、救急車の中に乗ってみたいしました。子どもたちからは消防士さんに対する質問もたくさん飛び出し、普段経験することができない体験に心を弾ませ、楽しい一日となりました。

(済生記者 三沢陽和)

WEB掲載はじまりました!

済生会 topics WEB

機関誌「済生」に投稿された topics から厳選した記事を発信中!

<https://www.saiseikai.or.jp/topics/>

〈新潟〉三上市西四日町デイサービスセンター

園児たちの和太鼓演奏が心に届く感動のひととき



7月9日、なでしこ青空保育園で「和太鼓演奏会」が行なわれました。この企画は保育園に隣接する三上市西四日町デイサービスセンターの利用者さんと園児の交流を深めることを目的に開催。今回の参加者は園児17人と利用者さん14人でした。交流会では、園児の力強い和太鼓演奏が披露されました。利用者さんからは「上手だね！」「かわいいねー！」「と称賛の声が上ががり、なかには感動して涙を流す利用者さんもありました。

演奏終了後には、一緒に和太鼓をたたく時間も。直接の交流が難しかったコロナ禍を乗り越え、このような形で交流が再び実現できたことは、大



きな喜びとなりました。
(特養長和園 済生記者
布施優子)

〈北海道〉小樽病院

高校生が看護体験 看護職の魅力知る一日に

6月18日、「ふれあい看護体験」に市内の小樽潮陵高校、小樽桜陽高校の生徒6人が参加しました。看護職に関心を持つ若者に、実際の業務を体験しながら看護の魅力や医療現場の雰囲気を知ってもらうことが目的です。

体験では、患者さんとのコミュニケーションや保清介助、車椅子・ストレッチャーの操作、手術室での手洗いやガウン着用に挑戦。サポートした看護師は「看護は技術だけでなく、心



を込めたケアが大切。今日の体験でその一端を感じてもらえたら」と語りました。参加者からは「患者さんとの会話が楽しかった」「看護師の動きに無駄がなく、すごかったよ」との感想が寄せられました。

生徒たちが将来の進路を考える上で、看護の仕事や人とのつながりの重みを知る、貴重な一日となったならうれしく思います。

(病棟看護管理室長 浅田孝章)

〈三重〉松阪総合病院

災害拠点病院の役割説明

6月17日、松阪市立鎌田中学



校の生徒20人が防災学習で当院を訪れました。災害時の対応を実際に体験することにより、防災・減災について理解し、中学生自身が地域に貢献する意欲を養うことを目的としています。

当院は災害拠点病院、津波一時避難ビルとして、災害時に地域住民を救う使命があること、正しい防災の知識を身に付ける

こと、自助・共助の大切さなどを、総務課の筆者が講師を務め、お話ししました。

これからの未来を担っていく中学生たちが今回を機に防災や減災について考え、少しでも実行していくことで、地域全体の防災力が向上してくれるものと



認知症ケア学会で「まふマフ」の発表

福岡総合病院

5月31日～6月1日に福岡市で行なわれた「第26回日本認知症ケア学会」に当院から副看護部長を含め4人が参加しました。

筆者は、浜松医科大学の鈴木みずえ教授が企画・運営された自主企画「九州地域において新たな認知症観を創造する認知症マフを用いたケアの展開」にパネリストとして参加。

当院でも「身体拘束0プロジェクト」の取り組みの一つとして、「まふマフ」と名付け、認知症ケアチームが中心となり患者さんに使用いただいています。このようなケアの実践を中心に話しました。

会場では、実際に使用されている「認知症マフ」の展示も行なわれ、一つひとつ丁寧かつ創意工夫されたでき映えに感動しました。

(認知症看護認定看護師

保利京子)

〈大阪〉泉尾特養第二大正園
よさこいパワで元気に

6月21日、地域交流センターでよさこい連「わ」の皆さんによる演舞が披露されました。3階・4階の入居者さん83人と職員15人が参加し、力強く迫力のある踊りに会場全体が引き込まれました。

鳴子の音とともに響く掛け声やそろった動き、美しい衣装が輝き、笑顔があふれました。中には感動して涙を流す入居者さんの姿も。よさこいの持つ力を改めて感じさせられました。

演舞終了後には大きな拍手と感謝の声が飛び、心温まるひとときとなりました。「迫力があつてすごかったよ」「あんな元気な踊り見たら、こっちまで元気になるわ」とうれしそうな入居者さんの様子が印象



的でした。

(済生記者 黒木洋輔)



〔愛媛〕 小田特養緑風荘 バツポが食べたい！

当施設では毎年恒例の七夕を迎え、7月1～6日の間、利用者の皆さんに願い事を書いてもらいました。7月7日、26人の入所者さんと、2人の短期入所者さんが心を込めて描いた短冊がホールを彩ります。

「健康でいられますように」「痛いところが早く治りますように」「など、身体のことを思う願い事を書いた人もいれば、「家族が健康でいられますように」「バツポ（宇和島の方言で餅）が食べたい」「らっきょうが食べたい」など、食欲あふれる願い事を書く人もいました。

短冊を飾ることで施設内が温かな雰囲気になりました。職員も一緒に短冊を飾り、「宝く



じが高額当選しますように」と願う職員も。職員と利用者の皆さんの気分転換にもなり、とてもよい機会となりました。



ました。

（済生記者 富岡優衣）

香川県済生会病院 癒やしと笑顔を届けた 七夕コンサート

7月3日、当院の1階総合受付前で「七夕コンサート」を開催しました。

当日は会場に入りきれないほど多くの患者さんや地域の方々など約30人が来場。中にはコンサートを見ただけに会場に足を運んでくれた方もいました。

職員によるハンドベル演奏や高松桜井高校合唱部の若い力あふれる美しい歌声が会場を包み込み、季節感のある「たなばたさま」や、「少年時代」「夢をか



なえてドラえもん」といった耳なじみのある曲が披露されました。

音楽を通じて患者さんに笑顔と癒やしを届けるとともに、地域とのつながりを感じる、七夕の夜にふさわしい心温まるイベントとなりました。これからの地域の皆さまに寄り添う病院づくりを進めてまいります。

（済生記者 長尾美甫）

〔静岡〕 特養小鹿なでしこ苑 笹の前で、ハイ、ポーズ

7月7日の七夕に向けて、6



の飾りはそこよりこつちの方がかわいく見えるよ」などと、口を動かしながら手も動かし、あつという間に飾り付けが終了しました。

でき上がった笹を玄関正面に飾り付けると「すてき、すてき」と拍手を送る入居者さん。それ

月30日に当苑の入居者さん9人で笹に飾り付けを行いました。まずは入居者さんに短冊に願いごとを書いてもらいました。「やつぱりうちに帰りたいな」「おいしいものが食べたい」「家族が幸せならいいな」など皆さん思いを込めて短冊に書いていました。

いざ飾り付けが始まると、「私のは目立つところに飾って」「そ



オカリナ奏者「れんげ草」の皆さん

〔滋賀〕 守山市民病院 夏の癒やしのひととき オカリナとともに歌う

恒例の七夕コンサートを7月7日に当院ロビーで開催しました。開始時間が近づくにつれ、患者さんが集まり、約40人が演奏を楽しみました。

今回は「れんげ草」の7人によるオカリナ演奏で、曲目は「たなばたさま」をはじめ、童謡や昭和の名曲など12曲。「歌って



では皆さん笹の前で、ハイ、ポーズ。どんな飾りよりも皆さんの笑顔の方が輝いていました。（介護サービス課 望月勇佑）

〔島根〕 老健高砂ケアセンター バナナ食べたい…… 個性あふれる願いごと

7月7日に1階の一般棟で入所者さん約40人とスタッフ9人で笹を使って七夕飾りを作りました。

短冊には「家族6人が元気でくらすますように」「おうちに帰れますように」「もう少し元気で長生きしたい」など、思いの願いが書かれました。また、「外に出てバナナ食べたい」などユニークな願いも。人それぞれ願いは異なりますが、入所者さんの願いが少しでもかなったときの笑顔をスタッフが



の定番ソング「琵琶湖周航の歌」で締めくくられました。次のコンサートはクリスマスマスの予定です。コンサートを通して、患者さんに癒やしの時間を提供していきたいと思えます。（済生記者 中嶋元香）

見ることができれば、我々の願いもかなえられるのではないかなと思っています。

七夕は、昔は旧暦の7月7日に行なわれており、今の暦では8月の初めごろにあたるといわれます。日本三大七夕祭りもその頃に行なわれるようですが、皆さんの七夕飾りを見ながら、一度は行ってみたいと思いました。

（済生記者 木下 英）



〔新潟〕 特養長和園 まんなかランチで 七夕飾りイベント

介護予防教室主催の「まんなかランチ」が6月27日に開催されました。今回はまんなかランチの開催に合わせて、梅シロップ作りと七夕飾りのイベントが行なわれました。対象は地域の皆さんで、まんなかランチには18人が参加し、午後の梅シロップ作りと七夕飾りには5人が参加しました。

まんなかランチは毎月1回、会食形式で開催、限定20食、参加費3000円のランチイベントです。今回は揚げたての天ぷらと出汁



の効いたうどんを提供し、参加者の皆さんからは「揚げたての天ぷらが美味しい!」「うどんの出汁が効いている!」との声がかれました。また、ランチの後は梅シロップ作りと七夕飾りのイベントを実施。楽しい時間を過ごすことができたという好評でした。

〔済生記者 布施優子〕

新潟県中央基幹病院 職員が採取した笹で 七夕イベント大成功

7月1日から7日にかけて、院内に笹を設置し、短冊を飾る七夕のイベントを開催しました。笹は広報の職員が親戚宅の竹やぶから調達。蒸し暑い中、手足や顔などを蚊にたくさん刺されながらも、一生懸命大きい竹



をちようど良い大きさに切りました。その甲斐あってか、イベントはとても好評でした。病院1階のエントランスホールに笹を飾り、短冊の重みで笹がしだれるほど多くの方に短冊を書いていただきました。「早く病気が治りますように」「家族が健康で過ごせますように」など病院ならではの願い事もたくさんありました。

〔総務広報課 富澤 環〕

〔静岡〕 特養小丸苑 七夕飾りで願う 健康と世界平和

7月4日、地域の憩いの場「小丸苑カフェ」で、七夕飾りを作



りました。参加者は21人、地域のボランティアさん4人と当苑職員で行ないました。はじめに手先の運動を兼ねて、ボランティアさんとともに、折り紙でお星さまと金魚を作りま

した。短冊作りでは皆さんの願いが多めなため、短冊ならぬ長冊になってしまったものもありましたが、手先が器用な人が多く、飾りも含めて豪華な七夕飾りが完成しました。また、おいしいコーヒーや冷たいお茶で休憩した後は、体操でリフレッシュしました。

〔在宅サービス課 岩崎圭介〕



〔福井〕 ぽっかぽか園 星をめがけて よいいドン!

令和7年7月7日のラッキー

な日に、福井県済生会病院内のぽっかぽか園で七夕会を開催。玄関の笹に願いを込めた短冊も飾りました。「健康ですくすく元気に育ちますように」「アンパンマンに会えますように」など、家族の願いや子どものかわいらしい願いがたくさん飾られました。

七夕に関する絵本やパネルシアターを鑑賞した後は、全園児が星型に切られた画用紙を吊るし、よいいドンで取りに行く「お星さまレース」をして楽しみました。

願いをつかみ取るように白熱したレースになりました。皆の願いがかなない素敵な出来事が訪れますようにと、皆で「たなばた」の歌も歌いました。

〔施設サービス課 横田友里〕

〔山形〕 特養愛日荘 短冊づくりと水ようかんで 笑顔こぼれる七夕に

連日の猛暑にも負けず、我々のユニットでは7月7日の七夕行事を行ない、20人の入居者さんが参加しました。

今年から新たに造花の笹木を使用していますが、本物と見間

違えるような作りに職員一同感心し、入居者さんも目を輝かせていました。前日から願い事を考えていた人も、当日にその場で考える人も、各々短冊に願いを書く姿はとても真剣です。書き終えると一生懸命笹に手を伸ばし、慎重に短冊を飾り付けていました。

飾り付けのあとは皆さんお待ちかねのおやつ時間です。少しでも涼しさを感じてほしいと、水ようかんを提供。ひと仕事終えた後の甘い水ようかんは格別においしいようで、思わず笑顔がこぼれていました。

〔介護職員 佐藤 歩〕





〔佐賀〕唐津病院 沖縄伝統の三線演奏で 心に響く七夕に

7月7日、回復期リハビリテーション病棟で東麻美さんを招き、三線演奏会を開催しました。東さんは沖縄の伝統楽器の三線奏者で、学校や神社、お祭りなどで沖縄の話や音楽を伝える活動をしています。入院患者さんのお知り合いという縁で、今回の演奏会が実現しました。沖縄の民族衣装を着た東さんが登場すると一気に南国ムードに。「たなばたさま」「花」「島人ぬ宝」「ハイサイおじさん」



など7曲のほか、リクエストがあった「川の流れるように」まで演奏。患者さんと一緒に口ずさんだり手拍子をしたりして楽しんでいました。当日は患者さんと職員が60人ほど集まりました。軽やかな音色に癒され、心に残る素敵な七夕になりました。

（済生記者 相島蘭香）

香川県済生会病院

「季節のぬくもりをお届け」 エンタランス掲示で笑顔に

当院の正面エンタランスでは、患者サービス委員会による季節の掲示物が、来院する皆さんを温かく迎えています。医師や看護師、事務員などで構成される29人のメンバーで、七夕の笹飾りやクリスマスツリーなど、四季折々の手作り装飾を心を込めて作っています。

患者さんやご家族の皆さんが少しでもほっとできるような、と令和5年度から始まった取り組みで、年々工夫を凝らした内容に。「目を引く飾りにほっこりした」「季節を感じることができてうれしい」との声も寄せられています。

当日はとても暑い日でしたが、用意した50脚の椅子が満席になるほどたくさんの方が来場、皆さん会場に流れる涼やかな音色に耳を傾けていました。最後に恒例の「六甲おろし」が演奏されると、手拍子で会場が一体となり、会場の熱気は最高潮に。たくさんの方の笑顔がふれる演奏会となりました。

（済生記者 坂本千晶）

〔三重〕明和病院 ストライクでハイタッチ！ ガーターで大爆笑！

6月15日、職員共済会主催による「新人歓迎ボウリング大会」が開催されました。令和7年度採用の新人職員24



院内が少しでも優しい空間になれば……という思いで、今後とも掲示を続けてまいります。病院を訪れるひとときが、少しでも明るく、優しい時間となりますように。

（済生記者 長尾美甫）

〔大阪〕野江病院 六甲おろしで大団円

7月8日に当院1階ロビーで「なでしこふれあいコンサート」七タバージョンを開催しました。このコンサートは、患者さんや地域の皆さんに心とめるひとときを送っていただくことを目的に年2回開催しており、今回で28回目の開催です。

演奏者に音楽療法活動をされているピアニストの西山満理さん、ソプラノ歌手の石橋文恵さん、フルート奏者の大鶴華子さんを迎えて、七夕や夏にまつわる童謡をはじめクラシック、万博のテーマ曲など約1時間演奏いただきました。



変更点は大きく三つ。まずは、運用方法の変更です。HTML管理からWordPressに移行し、専門知識がなくても直感的に更新が可能に。ネット環境があればどこでも編集できるため、緊急時の迅速な情報発信にも対応できます。

〔埼玉〕川口総合病院 ホームページを7年ぶりに 全面リニューアル

当院のホームページを2018年以来7年ぶりに全面リニューアルし、7月10日に公開しました。

従来サイトを一から見直し、「見やすく、使いやすく、わかりやすい」をコンセプトに刷新。

次に、採用サイトの新設。求職者に当院の魅力をより明確に、魅力的に発信します。

最後は、すべての利用者に優しいデザイン。レスポンシブデザインやアクセシビリティを強化し、患者さん、ご家族、職員など皆さんにとって身近な存在を目指しました。

新サイトをぜひご覧ください。（済生記者 原 衣里奈）

topics



の場所を取材。毎年5月14日には水子供養祭が行なわれ、済生会職員や地域の方々が静かに祈りを捧げています。

今回の報道を通じ、命と向き合う医療のあり方や、当時の苦悩に思いを寄せていただく機会になれば幸いです。

(済生記者 大園晶洋)

胎児たちを悼むとともに、こうした出来事を後世に伝えるために建立されたものです。

7月8日にTVQ九州放送が、7月11日にはテレビ朝日「報道ステーション」がそれぞれこ



6月4日、高齢者医療・ケアサポーターチームの主催で職員研修会「ユマニチュード研修」が開催されました。

日本ユマニチュード学会認定チーフインストラクターの安藤夏子さんを講師に迎え、院内の3会場を使用。167人が参加し、当院では過去最大規模の研修となりました。

チーム医療・高齢者医療におけるケアの質向上を目的とし、実際のシチュエーションをもとに、「技術」と「哲学」の両面からユマニチュードの考え方を

6月6・7日に、湯の山温泉グリーンホテルで新人研修が行なわれました。今回の新人研修は、研修医1年目の筆者も含め、看護師・検査技師・放射線技師・臨床工学技士・視能訓練士・薬剤師・事務員の計78人が参加。他職種でメンタルヘルス、医療安全、教育、多職種連携教育についてグループワークを実施しました。日々の業務に直結する気づきが多く、非常に有意義な時間となりました。

また、交流の場として企画されたバーベキューでは、同僚との関係性が深まり、業務中のコミュニケーションがより円滑になったと実感しています。研修

新人研修で深まる関係性

(三重) 松阪総合病院

大関千草

学ぶ構成。それぞれの職種に応じた学びや気づきが得られるものでした。

参加者からは「自分の行動を見直すきっかけになった」などの声が寄せられ、アンケートの結果を見ると、全体の7割以上が高評価でした。

(認知症看護特定認定看護師 大関千草)



の開催にご尽力いただいた皆さんに、心より感謝申し上げます。

(研修医 高橋 慧)



病棟がコンサート会場に!?

神奈川県病院

6月11日、地域包括ケア病棟でレクリエーションを実施し、6人の入院患者さんが参加しました。個々の思いを込めた、世界にひとつだけの「オリジナル推しうちわ」作りに挑戦。完成したうちわを手に、次は西城秀樹さんのコンサート映像を鑑賞。「YOUNG MAN」や「ローラ」など懐かしの名曲が流れると、手拍子やサイリウムの光が自然に広がり、会場には一体感が生まれました。

(済生記者 小山友輝)

未来の看護師へ向けた看護フェア開催

千葉 習志野病院

6月14日、「看護の日」から1カ月遅れとなりましたが、当院で看護フェアを開催しました。習志野市内の5人の中学生が参加し、日本看護協会の「なりたて自分になってやる」をテーマに実施しました。

参加者には白衣試着体験で看護師としての姿をイメージしてもらったり、高齢者疑似体験で加齢による身体の変化について伝えました。また、手浴体験では看護師の声かけや手の触れ方によって、患者さんの安心感が大きく変わることを実感してもらいました。

参加者は「患者さんにとって癒やしになる看護の役割を実感



できた」とコメント。病棟見学や質問コーナーは、看護への理解を深める場となり、参加者同士の交流も生まれて終始和やかな雰囲気で行いました。

(人事課 係長 佐藤昌明)

水子地蔵への報道取材

(福岡) 二日市病院

かつての二日市保養所跡地に当院が建てられ、のちに移転。現在は特養むさし苑の駐車場になっており、そこに水子地蔵と慰霊碑があります。これらは、戦後の混乱の中、引き揚げの過程で性被害を受け、望まぬ妊娠を強いられた女性たちの苦しみ

〔滋賀〕 特養淡海荘 「リハビリ勉強会」

6月23日に家族会主催の「リハビリ勉強会」を実施しました。当荘のリハビリ担当で、機能訓練指導員の新水治潔理学療法士が講師となり、ご家族向けにフレイル予防の体操やマッサージなどを紹介。当日は30人が参加し、ご家族が利用者さんにハンドマッサージを行なうと、手の温もりでうとうとされる利用



者さんの姿も見られました。

講習後は、福祉用具の紹介と体験会を実施。当荘では「抱え上げない介護推進事業所」を目指し、積極的に移乗用リフトやスライディングシートを使用しています。

実践イベントを行なったことで、ご家族からは「身体に負担がかからず、安全で楽に移乗可能なことが分かりました」「実際に体験できたことで、安心して母の介護をお任せできます」といったうれしい言葉が聞かれました。

（生活相談員 遠藤百虹）

〈三重〉 明和病院 目標は済生会人の育成

5月23・24日に〈大阪〉中津病院で人事・人材開発部会2025年度定例会議が行なわれ、47人が参加。リーダーである当院の風仁志事務部長から今年度の活動目標として「済生会人の育成」を意識しよう」との話がありました。

「チャレンジ精神豊かで広い視野を持った信頼される事務員の育成」を目指し、今年度もワクワクする研修コンテンツを企



画・提供します。

また、当日は「JALに学ぶチームビルディング」として日本航空（JAL）から講師を招き、良いチームの条件、心理的安全性やコミュニケーションスキルの大切さを改めて学びました。

一人でも多くの「済生会人」の育成を目指して活動していきます。

（総務課長 山田範子）

〈大阪〉 千里病院 ケースメソッド研修で 能動的に学ぶ

7月16日、当院看護部とキャ

リア支援室主催による「ケースメソッド研修」が開催され、11人が参加しました。

ケースメソッドとは、特定の事例をもとに参加者同士が議論を行ない、能動的に学ぶことで各自の問題発見力や問題の構造化能力、判断力、意思決定力を養う教育手法の一つです。

参加者は事前にケース内容を予習し、それぞれの考えを持ち寄り、研修に臨みました。グループディスカッションから全体討議、まとめへと進行し、活発



な意見交換が行なわれました。

参加者からは「他者の意見を聞くことで、自分にはない視点を得られたのが新鮮だった」「物事を多角的に見るということを



学んだ」といった声が寄せられ、充実した研修となりました。

（済生記者 二階堂潤江）

静岡済生会総合病院 同郷の仲間との交流

5月16日、当院講堂で「特定技能外国人交流会」を開催しました。本交流会は、4月に雇用したインドネシア出身の特定技能職員の生活や業務での不安を解消し、同郷の仲間との交流を深めることを目的に企画されました。

今回は当院のインドネシア出身者4人とスタッフ5人のほか、特定技能外国人の雇用協力先である株式会社品川屋からも、特



写真や動画を通じて 看護師のリアルをお届け

4月1日、看護部のインスタグラムを新たに開設しました。

看護師の日常から業務風景、院内の取り組みなど、写真や動画をを通じてリアルな看護師の姿をお



届けします。

看護師を目指す学生さんや、求職者の皆さんにとって、当院の雰囲気や職場環境が伝わるような投稿を心がけていきます。

「こんな病院で働いてみたい」と思ってもらえるようなアカウントを目指して更新します。ぜひフォローといいいねで応援していただけると嬉しいです。また、病院全体の情報を発信している従来のアカウントも引き続きチェックをお願いいたします。当院の魅力をたっぷりと配信していきますので、どうぞお楽しみに。

（済生記者 鵜飼健成）

〈千葉〉習志野病院 実務研究協力8年目 元研究生が優秀演題賞

当院が毎年協力している薬学生の実務研究支援も今年で8年目。昨年度の研究生・井上桃歌さん（東京薬科大学薬学部医療衛生薬学科）が、6月22日に開催された第18回日本緩和医療薬学会年会で口頭発表を行ない、300以上の演題の中から「科学的考察に基づいた優れた研究」として優秀演題賞に選ばれました。



井上さんは約5か月の実習の間をぬって、前向きに研究に取り組みました。その姿は協力スタッフ3人（当院薬剤部の筆者、岸本大裕さん、星加織さん）の心にも強く響きました。受賞に際して井上さんは「患者さんを第一に考えて業務に取り組んでいる先生方とともに研究できたことは、病院薬剤師を目指す私にとって大きな励みとなり、

今後の糧にもなりました」とメッセージを送ってくれました。
（薬剤部長 田中嘉二）

〈栃木〉うつのみや なでしこ保育園 トラックで「死角」を学び キャラクターに大興奮！

6月23日、園内で交通安全教室を行ない、2歳児以上の園児43人が参加しました。今回は市のプログラムの中からヤマト運輸の「子ども交通安全教室」に応募しました。

まずは園庭で、配送トラックを使って「死角」の体験です。運転席に乗ってその視界を確認した保育士は「運転席からは皆がほとんど見えなかったから、車の周りで遊ぶのは絶対やめようね」と子どもたちと約束をしました。続いて、幼児組の子どもたちも順番に運転席に座り、「死角」を確認。「トラック大きいね」「後ろも広いから見えないね」などの感想がありました。次に移動したホ



ールでは、ネコの「クロちゃん」と「シロちゃん」のお出迎えに子どもたちは大喜び。指導の後、信号と横断歩道の練習をして交通安全教室を終えました。
（園長 山口 康）



影をしました。
看護専門学校では2年生が「Sanrio Character Aid」と呼ばれる社会貢献活動の動画を視聴後、「未来の医療従事者たちへ」とプレゼントをもらい、写真撮影をしました。

突然の訪問に「キャー、かわいい！」「と大興奮。どの施設も皆が笑顔になって、最高の思い出を作ることができました。
（済生記者 鈴木亜希乃）

〈茨城〉水戸済生会総合病院 慢性腎臓病予防を啓発 イベントに1100人超

6月8日、イオンモール水戸内原1階メインコートで「市民公開講座2025 健診を受けて防ごう慢性腎臓病（CKD）」及び腎臓病予防啓発イベントを開催。水戸市・茨城県央腎臓病地域連携協議会との共催で、健診と腎臓病予防の重要性を知ってもらうことを目的に、今回が9回目の開催でした。

当日は総合司会に大場内科クリニクの小林正貴理事長、開会の辞に高橋靖水戸市長をお招きし、延べ1100人以上が来場。慢性腎臓病に関する講演

のほかに、血管年齢測定やむくみチェック等のイベントで、大盛況となりました。

責任者の海老原至副院長は「健診を受けることで腎臓病の早期発見につながるの、地域の皆さんが将来、透視にならないようにお役に立ちたいです」と目標を語りました。
（済生記者 今野正俊）

〈福岡〉二日市病院 「健康診断」受診を促進

6月22日、「第9回健康福祉フェア in イオンモール筑紫野」を開催し、283人が来場しました。

今回のテーマは「健康診断」で、健診に関する講演会をはじめ、親子で楽しめる健診のお仕事体験、血管年齢測定、骨密度測定、ベジタブルチェック、AI笑顔測定、健康相談、当



〈大阪〉中津医療福祉センター キティちゃんの訪問に 子どもも大人も大興奮！

サンリオの人気キャラクターのハローキティが7月8・9日、中津医療福祉センターの大阪整肢学院・中津病院・中津看護専門学校で3施設を訪れました。整肢学院では子どもたちがハ



ローキティと一緒に「幸せなら手をたたこう」を踊りました。練習の成果を発揮し、皆とても楽しそうでした。

中津病院では院内保育所と病児保育室を訪問。その後約100人の職員たちと写真撮



院の所在する筑紫医療圏5市の健診事業の紹介を実施しました。来場者からは「気軽に測定できるのがよかった」「自分自身のことを知ることができてよかった」「子どもも楽しめたのでよかった」といった声が上がりました。

次回は10月5日、防災・災害医療をテーマに開催します。最近何かと話題な災害について、地域の皆さんにより防災意識を高めていただけるようなイベントを計画中です。
（済生記者 都甲七桜）

新任副院長もキャラ化！ 新潟病院

当院では、患者さんや地域の



大雑報

身の回りで起きた、さまざまなことを楽しく報告するコーナーです。
職場の話でも、家庭の話でも、休日の話でも。ご報告ください

皆さんから親しみを持ってもらえるよう、経営管理層をモチーフにしたキャラクターを広報活動に活用しています。

2025年4月、新たに副院長の2人が就任したので、新キャラクターを作成しました。

飛田俊幸副院長の「とびちゃん」と横山純二副院長の「じゅんちゃん」です。



済生記者の取材活動ご紹介

機関誌「済生」7月号に投稿した「2型コラーゲン異常症患者・家族の会は、人と人とのつながりがあるって、記事になりました。」

筆者は地域連携室所属です。地域連携業務の中で、とある開業医の先生からお誘いいただいたのが「よこ



取材に奔走する長澤記者。この日は MARINE CAFE (P17 参照) を取材し、合間に横浜金沢草園の利用者さんと記念撮影

はま港南フェスティバル」でした。参加してみるとさまざまなブースがあり、その中に「2型コラーゲン異常症」のブースも。お話を伺うと、病気についてまだまだ周知されておらず、公的サポートも限られている現状を知りました。

私はソーシャルワーカーであり、済生会地域包括ケア連携士、また広報でもあります。少しでもお力になれるものはないか、と考え、機関誌に投稿することに。家族会代表の方に相談したところ、快諾をいただき記事掲載に至りました。

(神奈川・横浜若草病院 済生記者 長澤伸哉)
★病気の事実や課題を丁寧に伝えることで理解と共感を広げる。大事なことだと改めて感じました。
(本部広報課長 河内淳史)

コーヒーの香りに誘われて

7月3日、〈神奈川〉横浜市東部病院会食室で、タリーズコーヒーの無料試飲会が行なわれました。院内でタリーズコーヒーを運営する望屋サイエンス株式会社のご厚意により、職員にリラクゼーションしてもらう場の提供を目的として、企画・実施。お昼どきの11時から13時に行なわれた試飲会には、昼食を取り終えた職員約



200人が、コーヒーの香りに誘われて訪れました。

この日振る舞われたコーヒーは「キリマンジャロ」。試飲した職員からは「香りがとてもよく、仕事の合間の気分転換にぴったりでした」との声が聞かれ、酸味豊かでフルーティーな味わいを楽しんでいました。素敵な企画をありがとうございました！

(神奈川・横浜市東部病院 済生記者 荒木愛美)
★200人もの職員さんに大盤振る

「てづくりおもちゃ」で笑顔のセミたち誕生

6月中旬、岡山も梅雨入りし雨が多くなるはずでしたが、夏日のような日差しで、利用者も「あーなあ



と扇子で仰ぐ日々が続いていました。そんなある日、機関誌「済生」6月号が届きました。

いつも楽しみにしている「てづくりおもちゃ」のページを見ると、セミの作り方が紹介されていました。さっそく利用者さん4人・職員1人で取り組むこと約1時間で完成。最初は「こまけーなあ」「手がふるうわー」と岡山弁が飛び交いましたが、だんだんと面白くなり「2匹目も作ろうやー」と楽しめました。

体格の良いセミ、スマートなセミ、出目金のような目が飛び出たセミなど、皆違って皆良いセミが完成。早速デイサービスセンターに飾り、作



品を見ながら機能訓練に取り組みました。

(岡山・憩いの丘デイサービス センター 管理者 吉岡弘子)

★ミンミンと鳴き声が聞こえてきそうな出来！ ニヤリとしたセミの表情に、つい笑ってしまいました。
(メディカル・リーフ 坂本陽子)

誕生日のお祝いにこだわりのティラミス

〈埼玉〉特養彩光苑では特養入居者さんの誕生日に月1回、スタッフ手作りの甘いデザートにお祝いのカードを添えて提供しています。10人を超える月も多く、6月19日には、6月が誕生月の13人に提供しました。

嚥下機能の低下によりケーキのスポンジが食べられない人には、ユニバーサルデザインフード(UDF)



の認定を受けたティラミス。どうしたら本物のティラミスのようにできるか、見た目も工夫して、ココアパウダーと生クリームをトッピングすることにしました。入居者さんからは「あなたが作ったの？ おいしかったわ」との声掛けもあり好評です。



認知症の入居者さんにも、安全に食べられるだけでなく、見た目から「おいしそう！ 食べたい！」という気持ちになって食べてもらえるよう、管理栄養士と厨房職員で協力し、日々試行錯誤しています。

(埼玉・特養彩光苑 栄養科 大橋裕美)

★心のこもったデザート、とても温かい気持ちになりました。おいしそうでお腹すいちゃう！

(本部広報課 杉山菜央)

晴れ男・晴れ女のパワー勝る
色鮮やかな花々を楽しむ

6月18日、「あじさい鑑賞ツアー」をするために利用者さん2人、職員2人で、神戸ホテルフルーツフラワーに行ってきました。

梅雨真っただ中な上に筆者は雨男……ゆえに天候を心配していましたが、晴れ男、晴れ女の利用者さんがそろって参加されたおかげで当日は快晴！とてもよい天候に恵まれました。

現地ではピンクに水色、薄紫色と色とりどりのあじさいが朝露をまとい、鮮やかな発色を際立たせていました。見どころは丘の斜面一面に咲き乱れた白色のあじさい「アナベル」。視覚的に暑さを和らげ、涼を感じま



した。

あじさいを見終わり、水分補給のため、ホテルのロビーでひと休み。また来年も行きましようね！

（兵庫・済生会ハーモニー 障害福祉課 副主任 サービス管理責任者 鳥居信彦）

★爽やかな青空ですね！さすが晴れ男、晴れ女の利用者さん。色鮮やかなアジサイもすてきです。
（メディカル・リーフ 紫村柊斗）

最新技術に感動！

LRTでぶらり宇都宮の旅

梅雨晴れの日、入居者さん3人と職員4人で「ぶらり宇都宮の旅」と題し、JR宇都宮駅から話題の交通機関LRT（次世代型路面電車システム）に乗り込み、大型ショッピングモールに外出しました。ひとときわ目を引く黄色い車体や開

発の進む市街地に、入居者さんは「久しく見ないうちに新しい建物も増えた。まるで初めての街に来たみたい」と、変わりゆく街並みに思いを巡らせ、最新車両の快適な乗り心地を堪能しました。
下車後はショッピングモールを散策し、魅力的な専門店に目移りしながら買い物を楽しむうちに時間が過ぎ、充実感とともに名残を惜しむ入居者さんと「また皆で出かけましよう」と約束を交わしながら帰路につきました。
（栃木・特養とちの木荘 済生記者 川上藍美）



る駅東は一変しましたね。
（メディカル・リーフ 岩谷純一）

今年もこの季節が
やってきました！

夏といえば「お祭り」ですね。〈北海道〉小樽老健はまなすで最初のお祭りといえば「塩谷神社」のお祭りです。その塩谷神社のお祭りが7月13日に行なわれ、当施設の前で「松前奴」の演舞が披露されました。演舞の主役は地域の中高校生約15人。約4メートルの長柄を巧みに振



り、先導の振舞の掛け声に合わせて、「ヤーキタリ」の掛け声をかけながら豪快な演舞を見せてくれました。

玄関前で観覧した入所者さん約20人は、獅子舞や天狗様に「ありがたや」と手を合わせたり、奴さんに

は大きな拍手を送っていました。

これからの季節、施設内でも夏祭りが予定されています。はたして、どんな夏祭りになるのでしょうか？
（北海道・小樽老健はまなす 済生記者 伝法俊和）

★中高生たちの元気で力強い舞に、夏バテも吹き飛びそう！賑やかで楽しい夏の始まりですね。
（大空出版 高橋美憂）



患者さんに安心感を！

初参加の防災訓練で得た気づき

6月18日、〈福岡〉大牟田病院で火災発生を想定した避難訓練と初期消火訓練が実施され、職員42人が参加しました。

今年度入職した私にとっては今回が初めての防災訓練。当日は患者役



を務め、実際に担架で運ばれる体験をしたり、車椅子の患者さんを階段から安全に避難させるための専用機械を使った訓練を見学しました。その中で、職員の声かけや対応が患者さんに安心感を与える上でいかに大切かを身をもって実感しました。
また、初期消火の訓練では、消火器の使い方について知識はあったものの、実際に操作する場面では緊張や焦りが生じ、想像以上に難しさを感じました……。

今回の訓練を通じて、日頃からの備えや、いざというときに落ち着いて行動するための意識づくりの大切さを強く感じました。

（福岡・大牟田病院

リハビリテーション科 大石朱莉）
★いざという時の冷静な行動と、不

次号予告

済生 No.1155
[令和7年9月号]

済生会の不易流行論 (204) 炭谷 茂

NEWSな済生人

済生会交差点
この人 田中彩子

口福につぼん (96)
てづくりおもちゃ いまいみさ

広告索引

三井住友銀行
—— 表紙見返し [表紙 2]

安な時の優しい声かけて患者さんにも安心できますね……。
（本部広報課 大嶋 薫）

夏季限定！
爽やかハープ水はいかが？

通所リハビリでは、積極的に水分補給ができるように、さまざまな飲み物を用意しています。夏は季節限定で「ケアポート栗東のお手製ハープ水」を提供。ハープ水は浄水に輪切りのレモンとミントを入れ、見た目、香り、味ともに爽やかな飲み物

になっており、毎年好評です。

6月16・19日の両日に、10人の利用者さんとともにレモンの下準備を行ないました。レモンを切る・種を取り除く・個包装にして冷凍保存するなど、それぞれの工程を担当してもらいました。作業中は、日頃の自宅での料理の工夫、ご家族のエピソードなどを話しながら、楽しいひとときになりました。

今年も長く暑い夏になりそうです。お手製ハープ水でしっかり水分補給をして、夏を乗り切ってほしい

缶詰づくりワークショップ

イベントブースツールのご提案

来場者の“思い出作り”をお手伝いします。

塗って楽しむ、缶詰づくり体験！

好きな“いきものフィギュア”を選んで自由に色を塗り、缶に詰め、缶の蓋を締める。気軽に持って帰れる自分だけのフィギュアは、楽しかったイベント参加の思い出として一生、形に残ります。



おたる水族缶とは？

北海道小樽市の観光スポット“おたる水族館”の獣医が監修！水族館生き物の忠実に造形、データ化し3Dプリンタでフィギュア化！地元企業の北海製罐の缶詰めに入った商品です！



ソーシャルインクルージョン商品です

水族缶の製造は、北海道済生会が運営する就労継続支援事業所が担っており、缶詰づくりワークショップの収益は事業所利用者の工賃に充てられます。



お問い合わせは北海道済生会まで！！

商品ラインナップ

(ご自由にお選びください)

- ・トド・アザラシ・フウセンウオ・ペンギン
- ・食べられる魚(ホッケ・ニシン・チョウザメ・オヒョウ)

料金

30,000円(フィギュア100体・缶締機貸出・缶100個・ラベル含む)

(※送料は別途実費分ご負担いただきます。)

お問合せ

北海道済生会 ソーシャルインクルージョン推進室 土谷
TEL:0134-21-2757 MAIL:Tsuchiya@hokkaido-saiseikai.jp



DMAT隊員の林さんを探せ？ 話題の映画で医療指導

〈栃木〉宇都宮病院非常勤DMAT隊員の林洋克さんが、6月13日公開の話題作「フロントライン」に取材協力しました。本作は、2020年



です。
(介護福祉士 青木裕未)
★夏の水分補給には最高！ハープ水があれば、暑い夏も元気に乗り切れそうですね……。
(本部広報課 大嶋 薫)



や劇中のワンシーンに登場する林さんの名前や姿を、ぜひ探してみてください。
(本部広報課 河内淳史)

2月に日本で初めて新型コロナウイルス感染症の集団感染が発生したクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」でのDMATの活動を基にした作品です。発生当時、当院のDMATも現場に出動し、患者搬送の調整などを行いました。
取材協力では、林さんが関根光才監督ら制作陣に写真や記録資料を提供し、当時の現場の状況や活動内容を詳しく説明。さらに撮影時には、防護服の着脱手順やアルコール消毒の動作などを出演者に指導しました。
そして、急きょ医療従事者役として出演することに！ エンドロール



済生会

明治44年2月11日、明治天皇は、時の総理大臣桂太郎を召されて「恵まれない人々のために施療救済による済生の道を広めるように」との済生勅語に添えてお手元金150万円を下賜された。桂総理はこの御下賜金を基金として全国の官民から寄付金を募って同年5月30日、済生会を創立した。
以来今日まで114年、社会経済情勢の変化に伴い、存続の窮地を乗り越えるなど幾多の変遷を経ながらも、本会は「施療救済」という創立の精神を理念とし保健・医療・福祉の充実・発展に必要な諸事業に取り組んできた。
戦後、昭和26年に公的医療機関の指定、同27年に社会福祉法人の認可を受け、現在、社会福祉法人済生会となっている。

済生

THE NEWSLETTER of
Social Welfare Organization
Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

令和7年8月10日発行

通巻第1154号(第101巻第8号)

編集兼
発行人 炭谷 茂

発行所 社会福祉法人済生会

〒108-0073

東京都港区三田1-4-28

三田国際ビルディング21階

TEL: 03-3454-3311(代)

FAX: 03-3454-5576

印刷所 株式会社白橋

東京都中央区八丁堀4-4-1

©社会福祉法人済生会

総裁 秋篠宮皇嗣殿下
会長 潮谷義子
理事長 炭谷 茂
本部11東京 支部140都道府県
病院 83
診療所 20
介護医療院 3
介護老人保健施設 28
救護施設 1
児童福祉施設 25
老人福祉施設 116
障害者福祉施設 9
看護師養成施設 7
訪問看護ステーション 67
地域包括支援センター 31
地域生活定着支援センター 5
その他 9
合計 404(数字は令和6年度)
さらに巡回診療船「済生丸」が瀬戸内海の57島の診療活動に携わっている。
職員数は全国で約6万7000人。

離島医療を守るため X線機器更新にご協力ください



瀬 戸内海には700余りの島が点在しています。国内唯一の診療船*「済生丸」が活動している岡山、広島、香川、愛媛県の有人島は84島あり、そのうち医療機関のある島は39島で、充実した医療を受けられる島はわずかです。*定期的に巡回診療を行う船

済生丸は、これまで半世紀を超える長きにわたり、瀬戸内海の約60の島々を巡回し、島嶼（とうしょ）部の方々の診療・検診を行い「海をわたる病院」として親しまれてきました。済生丸の診療で、命を救われた方も少なくありません。

しかし現在、診療に不可欠なX線機器の老朽化が進み、2025年12月までに更新しなければなりません。今回、機器更新を実現するためにクラウドファンディングに挑戦します。

離島の人々が安心して暮らせる医療環境を守りたい——。
医療機器の更新とサービスの強化により、さらに多くの島民の方々に必要な医療を提供し続けるために、皆さまの温かいご支援をどうかよろしくお願いします。



海をわたる病院
済生丸
SAISEIMARU

ご寄付募集中

クラウドファンディング
目標金額 **3,000万円**

06/02 ▶ **08/29**
09:00 23:00

お問い合わせはこちら

☎ **086-253-6071**

✉ saiseimaru@okayamasaiseikai.or.jp

済生丸 レディーフォー



<https://readyfor.jp/projects/saiseimaru>

